

2025 March

東京都市大学 校友会  
TOKYO CITY UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

# 都市

vol.12



## 手を差し伸べられる人、 手を差し伸べる人

東京都市大学校友会 会長  
皆川 勝  
(1979 土木)



### 1. 心からのつながりを得られる多様な同窓会活動

校友会には、多様な規模・属性の同窓会活動を充実させ、個々の会員が心から求めるつながりを得られる基盤の一つとなることで、母校と社会の発展に寄与することが求められています。

古い友人や、恩師・先輩との再会は楽しいものです。年齢差が小さく、スケールの小さいコミュニティへの会員の思い入れは強いものがあります。クラス会、部活で同じ釜の飯を食い、勝った負けただけで涙した仲、研究室で実験、研究とちよつとばかりの麻雀に一喜一憂した人たちなどです。

また、学科同窓会や同期卒業の全学科のコミュニティ、クラブ同窓会など、少し大きなコミュニティになっても、同じ学科を卒業した、同じ先生に学んだ、同じ監督に指導を受けたなどの共通点や、同じ学科でも勉強内容や勉強の仕方が大きく変わったなどの相違点があり、そのことで会話がはずむものです。

### 2. 手を差し伸べられる人から、手を差し伸べる人へ

そのように見たとき、校友会は母校にとっての最大スケールの同窓生コミュニティです。上記のスケールの比較的小さいコミュニティに比べて会員の帰属意識は必然的に小さくなるを得ません。それでもなお、校友会が強固な組織でなければならない理由は何でしょうか。理由の一つは、世代を超えた、あるいは小さなコミュニティにとどまらない人間関係の中から、時にある人の人生を大きく左右するような出会いが生まれることです。実際に、多くの若い会員たちが、先輩の温かい助言やサポートによって、自分のキャリアパスを見出しています。また、先輩の一言が仕事の行き詰まりを突破するきっかけを与えた例も多くあります。

若いころに先輩から手を差し伸べられた人は、年を重ね、



今度は自分が誰かに手を差し伸べる人になるのではないのでしょうか。そのようなつながりの連鎖が、永遠に続いてゆくのが校友会の活動だと思います。手を差し伸べる方法には、共に行動する、助言をするといったものから、どなたかの公での発言、講演、著作物がヒントとなって自分の行動に結びついてゆくものまで多様です。しかし、同窓であるというたった一つの共通項が、そのような関係が生まれる可能性を高くしてくれます。

### 3. 批評で終わらせず、自ら行動を！

わが校友会の現状を見たとき、充実した活動を阻害している要因は少なくありません。また、実施している事業には改善の余地があるものも多く、また、従来アイデアとしては議論されたものの実現に至っていないことも多くあります。校友会の使命は、地方支部、学科同窓会、小さな規模の同窓会の活動が活発に行えるよう、財政支援、環境整備、人をつなぐ支援を行うことです。

若いころ、ある先生に教えていただいた「ある小さな物語」(作者不詳)をお示しします。

*This is a story about four people named Everybody, Somebody, Anybody and Nobody.*

- 1. There was an important job to be done and Everybody was sure that Somebody would do it.*
- 2. Anybody could have done it, but Nobody did it.*
- 3. Somebody got angry about that because it was Everybody's job.*
- 4. Everybody thought Anybody could do it, but Nobody realized that Everybody wouldn't do it.*
- 5. It ended up that Everybody blamed Somebody when Nobody did what Anybody could have done.*

この物語の教訓の一つ目は、評論家で終わらないことです。行動につなげるべきだと思います。気づいただけで行動しないのは、気づかないより悪いと思うようにしたいものです。教訓の二つ目は、人任せにしないことです。自分で直接手を下すべきと判断すれば即行動するべきです。もし他の適切な方が行動するべきであるなら、その方が行動できるようにサポートすることが重要です。老若男女の別なく、より多くの仲間が行動する会に校友会が成長し、上記の使命を全うできるよう、皆さんと共に歩んでゆきたいと思います。

## 渋谷での新たな活動

東京都市大学 学長  
東京都市大学 校友会 顧問  
野城 智也



昨年、三木千壽先生の後任として、この欄で、学長就任の挨拶をさせていただいてから1年が経過いたしました。その挨拶のなかで、私は、次の二つの取組みを新たに始めることを申し上げます。

- 継続的な能力構築、
- 都市を舞台としたイノベーション

これらの新たな活動を展開していく場として、渋谷の五島育英会ビルの8階にTCU Shibuya PXU[パクス]というスペースが整備されました。その設計計画にあたっては、建築学科：堀場弘先生、小林茂雄先生にご指導いただきました。

PXUは、社会と大学の交流の場です。その名称のPには社会(Public, People)、Xには交流・交わり(Crossing)、Uには大学(University, Us)という意味が込められています。さらには、Xには社会と大学の間の何か(something between public and us)という意味も含めています。

PXUでは、次のような活動を展開していく予定です。

第一に、主として社会人を対象とした能力構築プログラムを企画・実施していくことで、イノベーションに寄与していける人材の育成を断続的に進めて参ります。まさに、PXUという場で、「継続的な能力構築」の活動を展開していくこととなります。

第二は、さまざまな様態の会合・組織機会を提供することで、既存の専門分野・産業領域区分や職域・役割分担を超えて、ステークホルダー間の新たなネットワークの構築・活性化を進めて参ります。こうしたネットワークは、多くの現代イノベーションの特徴であるオープンイノベーション、言い換えれば「皆で神輿を担ぐイノベーション」の基盤となります。まさに「都市を舞台に皆で神輿を担ぐイノベーション」の基盤がPXUという場で生まれ育まれていくこととなります。

PXUで展開していくこれらの活動に、校友会の皆様が参画・寄与いただくことは大歓迎です。

「継続的な能力構築」については、既に、2024年秋より、東京都市大学デザイン・データ科学部が中心となってDXリテラシーからDX推進スキルの基礎までをカバーする体系的な学習内容を提供するリカレントプログラム「DX人材育成コース」を社会人を対象にPXUで開講しています。いま、あらゆる産業分野・職域で、新たな価値の創出や生産性の飛躍的向上のため、AIの利活用を含むDXの推進が求められていて、これに背を向けることは、企業の競争力の低下や、個人の活躍範囲の制約をまねくおそれが高まっています。しかし、実際に、DXを推進できる人材の不足は深刻です。それだけに、校友会の皆様にも、このプログラムをご活用いただければと考えております。

また、都市工学科では2016年より、五島育英会ビル地階サ

テライト教室にて、社会基盤整備事業の国際的な市場・技術動向に関する知識を修得する大学院プログラム「社会基盤マネジメントリーダー育成プログラム」を実施してきましたが、同ビル8階のPXUに場所を移して展開していきます。海外プロジェクトにおいて、日本の建設業や製造業は、折角しっかりした技術力がありながら、契約管理を含むプロジェクト・マネジメントの能力が十分ではないために、損失を被るといった事例は決して少なくありません。こうした、誠に勿体ない状況を改善するために、プロジェクト・マネジメント能力の体系的な取得をした人材を育成していくことを目指しています。校友会の皆様にもご関心を持っていただければ幸いです。

このように、能力再構築・能力の継続的構築に関わるプログラムが既に二つ立ち上がっていますが、私は、現代社会において新たな能力構築が切実に求められていることからは、まだまだ多数存在すると考えています。実際、本稿執筆時点でも、いくつかのことからについては、新たなプログラムの企画を立案中です。昨年も申し上げましたが、校友会の皆様には、今のような切実な能力再構築のニーズがあるのか是非ご教示いただき、できましたら一緒に新たな能力構築プログラムを立案していきたいと考えております。

「都市を舞台に皆で神輿を担ぐイノベーション」については、それぞれの担ぎ手がそれぞれの得意技を発揮しつつ、ひとまとまりの解決策(integrated solution)を生み出していく課題の特定・定義と、課題に即したチームづくりを進めています。いま、俎上に載っている課題の一つが、ヒト、ロボット、建築のドアが、お互いにぶつかることなく協調的に動く空間のマネジメントです。ヒトや、ロボットが近づいたら、それを認知してドアが自動的に開閉するというのは、生活者視点から見れば、ごく当たり前の所作です。しかし、その背後には、空間認識、ヒト・ロボットの動作認識、異種の組み込みシステムを搭載した人工物を一つのプログラムで制御することなどの課題が存在し、それらの課題を乗り越えて、ひとまとまりの解決策を生み出すには、建築、機械、ICTなど異なる分野の専門家が神輿の担ぎ手として連携できるチームづくりが不可欠です。

この事例のように、PXUでどのような、ひとまとまりの解決策づくりに取り組むか、逐次アナウンスして参りますので、校友会の皆様からご覧になって、「これは」という取り組みがありましたら、是非、担ぎ手としてご参加ください。また、「こういう、ひとまとまりの解決策を創ろう!」というご提案も歓迎いたします。

PXUをはじめ、東京都市大学の挑戦・取り組みにご理解を賜り、引き続きご支援にご指導を賜りたく、どうぞよろしくお願いたします。

## 世田谷キャンパス

2024年11月2日、世田谷キャンパス学生食堂にてホームカミングデーが開催された。今年も世田谷祭1日目の開催となり、武蔵工業大学時代から東京都市大学までのOB・OGが集結した。会の最初には野城智也学長のご挨拶が行われた。続いて校友会会長皆川勝氏、在学生代表の学生団体連合会本部執行委員長大日方哲さんから歓迎の言葉が述べられた。その後は写真撮影、乾杯の挨拶が行われ、会食の時間となった。参加者は近況報告や思い出話に花を咲かせ、会場は盛り上がりを見せた。歓談のなかエレクトーンサークルによる演奏が披露されると、会場からは大きな拍手が送られた。

会場では、武蔵工業大学の卒業生が多い中、現役生や新卒の方も見られた。参加した2名の方にお話を伺った。2021年に卒業されたOBの方は「今回は2回目の参加で、今年も世田谷祭が開催されるついに行こうと思った。色々

なOB・OGの方に会える良い機会だと思っておりまして」と述べた上で「久しぶりに校舎に来て学生時代に戻ったかのような気分です。ただ、建物が新しくなっているなど以前とも違いがあってそれを見るのも一つの楽しみにしています」と母校に来訪することへの想いを告げた。自然科学科学生会の学生は「OB・OGの皆さんが集結して、こんなに熱気を帯びているとは思わなかった。皆さん都市大が大好きなんだと会場の雰囲気から感じられた」と普段では見られない光景にとっても驚いていた。

ホームカミングデーは卒業生の皆さんが母校を訪れる機会だ。また、旧友が社会に出てどういった道を進んでいるのかを知ることは、今後の人生におけるヒントになるかもしれない。本日卒業された皆さんにも是非来年以降のホームカミングデーに参加し、本校での学生生活を懐かしむ時間を味わっていただきたい。



## 横浜キャンパス

2024年9月15日、横浜祭初日に横浜キャンパス同窓会楫の木会がホームカミングデーを実施した。参加対象は卒業生や教職員から在学生・受験生までと幅広く設定され、120名が参加した。

第1部の横浜キャンパストークライブ“YC talks”では22G教室にて卒業生による講演「卒業生たちのいま、そしてこれから」及び、教員による特別講義「社会人になった君たちに贈る補講」が行われた。特別講義には大谷紀子先生(情報システム学科教授)が登壇し、『わくわく!』から始まったアナロジー研究」と題して学びのきっかけとなる「わくわく」する感情を交えた自身の研究の歩みを紹介した。大谷先生は「自分の芯となるものを持って仕事をしてほしい。『わくわく』が皆さんの芯になると良い」と講義を結んだ。

第2部は3号館5階YCホールにて懇親の場が設けられた。参加者同士、飲食と歓談を楽しむ様子が見られた。参加者からは「武蔵工業大学時代から続く様々な世代の方と交流できて有意義だ」「校友会のイベントで知り合った先輩と話せる良い機会だ」といった声があがった。

今回卒業生講演を行った青地さんは講演について「自身の過去を改めて振り返れた」と述べ、「自身が壇上から講義をするような体験には独特の緊張感があり、面白かった。先生や学生が興味を持って聞いてくれて楽しかった」と続けた。

ホームカミングデーと共に横浜祭を訪れると、コロナ禍を経た横浜祭の様子も感じられる。「一度途絶えてしまったものが3年の月日を経てここまで復活しているとは驚いた」と感心する卒業生も見られた。

楫の木会の吉村正伸会長は「学生から卒業生まで様々な人が来たことを喜び、今後の開催へ活かしたい」と語っている。秋晴れの中実施されたホームカミングデーは、卒業生が今一度母校に戻り、学生時代とは異なる立場で大学に関わる機会となった。





## 米国で働くための壁

服部 健一氏

米国特許弁護士

1966年3月 武蔵工業大学 機械工学科卒業

米国へ移住して40年、米国特許弁護士として働いてから約35年になるが、日本の特許関係者から良く聞かれる質問は、「日本人がアメリカで働いて一番大変な事は何ですか？やはり英語ですか？」という質問である。英語も特許技術の理解も大変であるが私の場合その答は「米国人特許弁護士達の嫉妬である」が正しい答であろう。何故他の米国特許弁護士達が私を嫉妬するのであろうか。それを知るためには米国特許訴訟のあり方、立証の仕方を理解しなければならない。

米国特許訴訟は米国特許弁護士によってコントロールされるが訴訟弁護士達は問題の特許技術の専門家ではないのが殆どである。そこで訴訟ではその特許技術の専門家に特許技術の素晴らしさを証言させ、そして反対側陣営は自分達の専門家に特許の問題点を証言させて争い、陪審員や裁判官はいずれの側の専門家証人の信憑性がより強いかで評決や判決を下すのである。その間、訴訟弁護士は専門家証人に色々尋問して自分の側に有利な証言を引き出すことが主な業務で、訴訟弁護士自身が証言するわけではない。

米国特許訴訟は勿論米国特許の解釈、有効性、侵害が問題になるが、その米国特許は日本や欧州にも出願されるために日欧特許庁でどのような議論がされたかが米国裁判でも役に立つことが良くあるのである。それほど特許問題は国際化していると言える。そうすると米国特許プラクティスと日本特許プラクティスの両方に精通している専門家証人が必要になることになる。

私は長い間日米で働いているのでそのような日米特許専門家証人として依頼される事件が結構あり、これまで40数件位行って来た。その場合、法廷で日米特許問題の専門家である事を裁判官、陪審員に納得させなければならないが、私の場合は経産省/日本特許庁で17年間働き（つまり、日本特許プラクティスの専門家）、その後1984年から米国法律事務所に就職し、働きながら夜学のロースクールを卒業してジュリス・ドクターの称号を得て、以来、30年以上米国特許弁護士として働いて来たので日米特許プラクティスの専門家であることは明白である。

私以前には誰がそのような専門家証人として法廷で証言していたのであろうか。それは日本特許問題に精通していると考えられていたほんの僅かの米国人特許弁護士である。しかし、彼らは日本特許問題を英語の米国資料に基づいて勉強していただけであり、日本語は出来ず、日本弁理士の

資格はないので日本で代理人になることは出来ず、その知識はたかが知れていると言える。つまり、私が30年前から米国特許市場に出たからは彼らの仕事は一掃されてしまったのである。よって彼らの私に対する嫉妬は凄まじいものがある。

その一例が20年ほど前にバージニア州の司法協会（バー・アソシエーション）に一通の英語の抗議文が届けられた事件である。差出人は「Sakamoto 何某」という日本人名であるが本当に日本人であるか、疑わしく、英文を読むと実際は米国弁護士だろうと考えられた。その内容は、「ケン・ハットリは経歴詐称している。日本では特許庁のみで働いていたはずだが経産省本省でも働いていたと偽っている。日本弁理士（ジャパニーズ・パテント・バー取得）でしかなかったはずだが、日本弁護士（ジャパニーズ・バー取得）であると偽っている。直ちに訴追せよ」というレターであった。

バージニア司法協会は私に対して直ちに訴訟を提起せず、まずそのレターを私に送り、どう反論するかを聞いてきた。私はそのレターを受け取ると、とにかく驚愕したが、同時にこいつは本当の事を何も知らないな、と直感した。何故なら、私は1972年～1976年の間、本当に経産省本省に出向して働いて、田中総理、中曽根大臣の下で石油危機による狂乱物価対策を行い、首相官邸にも行ったりした。但し、私の出向は経産省/特許庁初めてのお試しのもので辞令は出ていなかった。つまり、形式的には特許庁審査官のまま本省で働いていたわけであり、外部から見ると出向した形にはなっていなかった。日本弁護士の方は、私はバージニア司法協会に「ジャパニーズ・パテント・バー（日本弁理士）」の資格があると届けていたが、協会が「パテント」を落として「ジャパニーズ・バー（日本弁護士）」とミスプリントをしてしまっていたのだ。これは協会のミスである。経産省本省で働いていた事は、当時日本大使館で働いていた経産省の仲間がいたので証明書を書いてもらい、ジャパニーズ・バーは司法協会のミスプリントである事を指摘した結果、司法協会は納得して本件は一件落着で無事終了した。

こういう事件は他にもあったが、それらを記載するスペースはここにはない。とにかく、米国で働く事は英語の問題は基本的な問題であり、有名になるほど本質の問題が生じるものである。そしてそれらの問題を乗り越えて初めて米国で本当に働く地位が築けるという事を認識すべきである。

## 若き会員も参加 校友会埼玉支部総会

2024年9月7日土曜日、ホテル プリランテ武蔵野「フリージアの間」にて、校友会埼玉支部の総会・懇談会が開催された。

総会は、伊田埼玉支部長の挨拶から始まり、昨年度の活動・会計報告と監査報告、今年度の活動・会計計画が大図会計・安井会計監査から説明され、拍手により可決された。また、役員交代や新規選出が行われ、新支部長として岡村和之氏が任命された。副支部長、幹事長、幹事、監査、顧問の役員案も拍手により承認された。これら3つの議案をもって総会は終了した。

恒例の講演会では、40分の時間を取って東京都市大学建築都市デザイン学部都市工学科 稲垣准教授に、さいたま市におけるバリアフリーについてご講演いただいた。さいたま市は、バリアフリー基本構想制定において全国屈指のパイオニアであるそう。さいたま新都心駅には、半身不随者が快適に使えるように多機能トイレが左右対称に2つ設置されるなど、市全体でバリアフリーが進んでいる。このように、早期にバリアフリーに取り組み、住みやすい街が用意されている例は、全国的にも稀で誇りを持ってもらいたいとのことだった。

懇親会では、来賓の紹介に続き出席者の近況報告が設けられ、出席者は自身の所属する劇団の紹介や台風による大学の浸水の逸話、入学試験の思い出など披露して下さった。

前伊田埼玉支部長は、「在職中はコロナウイルスの感染拡大で思うように総会や忘年会・新年会が開けなかった。再開したこの総会も依然と比べ人が集まらず力不足を実感した」と総会への参加者が減少していることを憂えている様子であった。

新岡村埼玉支部長は、「埼玉県には、3000 - 5000 人もの卒業生がいる。ぜひとも校友会埼玉支部の活動に参加してほしい。特に、働き盛りの現役世代が少ない。忘年会・新年会の開催だったり、会員同士が趣味を共有して懇親会で発表したり、埼玉支部を活性化させ

ていきたい」とこれからの埼玉支部参加者数の増加と活性化に意気込みを見せてくれた。

閉会の折りには、東京都市大学と武蔵工業大学の校歌をそれぞれ斉唱し、記念写真を撮影して解散となった。

今回、初参加の令和2年に都市生活学科を卒業した野口会員は、閉会后に「大学在学中の前後4年の先輩後輩だけでなく、幅広い年代の先輩方と交流できて楽しかった。昔の武蔵工業大学の逸話や、社会人としてのヒントや仕事のアドバイスなども貰えた」と話しており、充実した様子で会場を後にした。



## 世代を越えて多くの交流を 川崎支部総会

2024年10月19日、世田谷キャンパスにて川崎支部中間総会が開催されました。

総会は、山岸支部長や皆川会長の挨拶から始まり、川崎支部に所属する学生数を含む地方支部別会員数の確認が行われました。その後、川崎支部によって実施された日吉台地下防空壕や殿町キングスカイフロントの見学会、川崎支部の運営方針や活動実績、収支報告などの紹介がありました。これらの報告を通じて、支部が参加者や地域とどのようにかわり、活動を進めているのかを知ることができ、参加者は支部の意義を改めて実感しました。

続いて、人間科学部の井戸ゆかり教授による「児童期・青年期の発達理解とより良いかわり方」をテーマとした講演会が実施されました。今回は青年期の特徴や自己理解の方法などについて理解することができる内容でした。児童期の発達の特徴として身体面、社会的比較、人間関係と3つの観点からの紹介がありました。児童期につまづきやすい時期として、小1プロブレムや9歳の壁、10歳や12歳ころの3つの特徴の紹介と、それにどうかかわればよいかということも合わせて挙げられました。また、青年期の特徴としてアイデンティティの確立や心理的モラトリアムなどの心理的変化が紹介されました。最後に、自己理解の方法として「Who am I? テスト」や「ジョハリの窓」などの紹介がなされ、今一度自分について考え直す時間となりました。この公演は、自分自身を振り返る貴重な機会となり、大学教授の講義を久しぶりに体験する良い場となりました。

懇親会では、参加者同士がテーブルを囲みながら、近況報告や学生時代の思い出について和やかに語り合いました。幅広い世代が集う場ならではの交流が行われ、支部活動への理解がさらに深まりました。

■山岸支部長 / 総会は参加者の高齢化に伴い、年齢層が年々上がっていますが、お花見やカップヌードルミュージアムなど誰でも楽しめる内容のイベントであれば若い人や親子での参加もあります。また、川崎支部が主催するイベントや、支部総会などに学生が参加することで、新たな見方を持った人に来てもらえそうですし、違う考えの人と会話することでまるでブラウン運動のように活性化するのでお互いにとって非常に良い機会であり、無駄なことは何一つないと考えています。

■佐藤支部委員長 / 講演会は、自分の幼少期を思い出しながら聞き、その後は子育ての記憶を振り返っていました。もし機会があれば今回の講演会で教わった接し方を活かして接してみようと思います。西日本では総会参加人数が10人程度にとどまっています。また、高齢化によって世代交代が難しいという状況がありますが、学生と地元企業の60歳以上の現役社員との交流機会があれば情報共有や世代間の交流が促進されます。会長もおっしゃっていたように、川崎支部は全国45支部の中で最も活発に活動している支部だと思っています。支部のリーダーとしてさらに積極的に活動を進めていきたいと考えています。そして、学生にもぜひ参加してもらいたいと思います。



## 笑いと情熱が交差する 大阪奈良支部総会

2024年10月26日、ホテル日航大阪4階「蘭の間」にて大阪奈良支部総会が開催された。

総会前には親睦行事として、「天満天神繁昌亭」での落語鑑賞が行われ、約23名が参加した。繁昌亭は大阪市北区天神橋二丁目に位置する寄席で、上方落語を中心に漫才や俗曲など多彩な演目が日々披露されている。参加者は皆、古典芸能の味わい深い魅力を堪能し、皆川会長も満足げな様子だった。

その後、会場であるホテル日航大阪に移動し、総会が開始された。幅広いバックグラウンドを持つ参加者が集まり、会は終始和やかな雰囲気で行われた。長村謙大阪奈良支部長や皆川勝校友会会長が挨拶を行い、昨年度は滋賀で大阪支部と合同で総会を開催したことが報告された。

また、他支部からの出席者も多く、宇野常任幹事・副支部会長、荒井兵庫支部長、永田兵庫支部事務局長、平井兵庫支部会計、玉木京滋支部長などが紹介され、各支部との交流の幅がさらに広がる機会となった。

会計報告では、西尾大阪奈良支部会計が今年度の活動を報告した。具体的な取り組み内容が示され、参加者からも熱心に耳を傾ける様子が見られた。

懇親会では乾杯の挨拶や一言タイムが催され、参加者一人ひとりが近況や今後の展望について話す場となった。一言タイムでは、新聞会の代表も登壇し、活動内容や校友会との関わりについて説明した。個人の近況や支部活動のエピソードも共有され、会場全体が終始和気あいあいとした雰囲気に包まれた。

皆川会長は、「若い世代の参加が重要」と述べ、学生の参加を高く評価。学生や若い世代の声が今後の支部活動の更なる活性化につながることを期待されている。

### 支部長からの声

■大阪奈良支部・長村支部長／大阪奈良支部は、大阪・奈良在住の卒業生が中心となって活動しています。しかし、関西から東京都市大学に進学する学生数は減少傾向にあり、卒業後すぐに参加してもらうのは難しい状況です。特に関東出身の卒業生が多い現状も影響しています。

■兵庫支部・荒井支部長／参加者の意見を尊重し、多様なアイデアを活かして活動を進めています。ただし、兵庫県内に行政機関が少なく、長期的な定着が難しい課題があります。それでも、首都圏出身者など多様なバックグラウンドの方々が集まる兵庫支部の魅力を大切にしています。

■京滋支部・玉木支部長／かつては近畿全体で数百人規模の集まりもありましたが、現在は規模が縮小傾向にあります。それでも諸先輩方は熱心に活動を続けており、バーベキューや観劇などのイベントで交流を深めています。年齢を重ねても気軽に集まり、楽しく過ごせる場が支部の良さだと思います。



### 校友会と新聞会の連携

新聞会では校友会の活動を広く発信している。2024年度は校友会本部の協力のもと、支部総会へも新聞会からの取材チームが派遣された。イベントの様子を伝える記事が新聞会ホームページに、記者による取材報告が校友会ホームページに掲載されている。両団体の連携により、校友会の魅力をさらに多くの人に届ける活動が続けられている。

### 東京都市大学新聞会

新聞会は東京都市大学の学生団体です。学生新聞である東京都市大学新聞を制作しています。会報「都市」第12号にて、ホームカミングデーおよび支部総会記事の執筆に協力させていただきました。

普段新聞会が発行しているWEB記事は以下のQRコードからご覧いただけます。大学の日ごろの様子にご興味がある方は、ぜひチェックしてみてください。また、紙に印刷した新聞を世田谷キャンパスと横浜キャンパスの各所に設置されたラックよりご自由にお持ちいただけます。学園祭でも頒布しております。大学にお越しの際は、ぜひ記念にお持ち帰りください。



<https://tcuprs.com/>

校友会では、2022年3月に、卒業生を対象とした「キャリア支援」を行なう特別部会（現在は卒業生のためのキャリア支援委員会として活動）を立ち上げました。卒業生の皆様が自らのキャリア形成に向けた方向や具体的な取り組みについて整理し、時代の変化に対応できる準備活動を始められる情報やきっかけを校友会が提供する、その仕組みづくり、すなわち「プラットフォームの構築」が本委員会の目的です。

プログラム名称は「～人生100年時代～生涯キャリアサポートプログラム」です。本委員会では多様な「コンテンツ」を準備しており、現在までに構築したプラットフォームにて卒業生の皆様に4項目の「コンテンツ」＝「柱」を提供しております。

人生100年時代と言われる中、在学生在が卒業後も校友会を通じてキャリア形成をサポートし続けるといった伝統のある校友会だからこそ実現できた他大学にはない先進的な取り組みです。

### キャリア形成を啓発する講演会

2022年11月26日（土）

テーマ「人生100年時代楽しむ4つのポイント～日本版“ライフシフトの法則”～」

講師 豊田 義博 氏（ライフシフト・ジャパン株式会社 取締役 CRO/ ライフシフト研究所 所長）

2024年1月27日（土）

テーマ「幸せなキャリアを創る！学び戦略～リスクリングのスタートに向けて～」

講師 前川 孝雄 氏（株式会社 FeeWorks 代表取締役 / 青山学院大学 兼任講師）

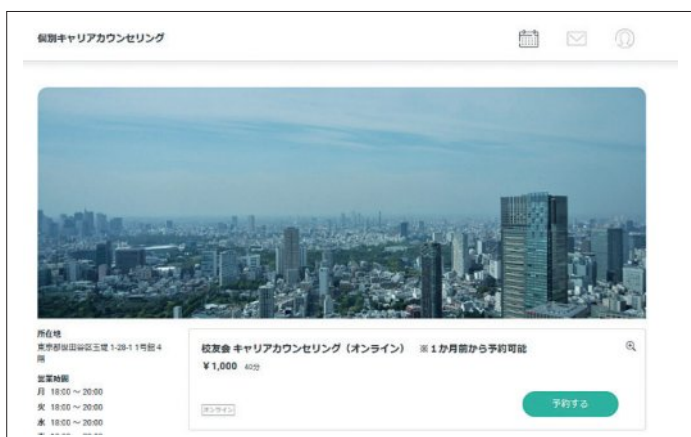
### 個別キャリアカウンセリング

2024年9月から卒業生による個別キャリアカウンセリングを開始しました。

今後のキャリア形成のことや、転職、学び直しについてなど、キャリア形成に関することであれば、卒業生はどなたでも40分1,000円（クレジットカード決済のみ）でキャリアカウンセリングを受けることができます。

※本来は40分2,000円ですが、1,000円は校友会が負担いたします。

国家資格を保有するキャリア形成について高い意識・知見を持っている卒業生3名が担当し、地方や海外在住の方でも受けられるようにオンライン（Zoom）で実施いたします。



キャリアカウンセリングの  
お申込みはこちら



<https://reserva.be/tcualumnicareer>

### ワークショップの開催

2023年5月27日（土）、2024年10月19日（土）

テーマ「人生100年時代のマネープランを考える」

講師 奥村 彰太郎 氏

（一般社団法人ビューティフルエイジング協会 理事 / NPO 法人キャリアカウンセリング協会 認定トレーナー）



## ホームページによる情報提供

今後、「学び直しのリカレント教育情報」「ハローワーク活用法」「転職情報」なども提供する予定です。また、社会人を対象とした東京都市大学リカレントプログラムのご案内も予定しており、卒業後も大学での学びの場を提供することが可能になりましたので是非今後にご期待ください。

### ～人生100年時代～ 生涯キャリアサポートプログラムの詳細はこちら



<https://tcu-alumni.jp/career-support/>

～人生100年時代～  
生涯キャリアサポートプログラム

人生100年時代と言われる、また各企業などで活躍する現役世代が求められる社会環境は大きな変化が予測されます。大学の卒業生がその環境の変化に早く気づき、自らのキャリア形成に向けた方向や具体的な取り組みについて整理し、変化に対応する準備活動を始める情報やきっかけを校友会が提供するプログラムです

人生100年時代を楽しむ4つのポイント  
～日本版“ライフシフトの法則”～

講師 豊田 義博 氏  
ライフシフト・ジャパン株式会社 取締役CEO/  
ライフシフト研究所 所長  
リクルートワークス研究所 特任研究員  
産学協働人材育成コンソーシアム 理事  
高知大学客員教授  
京沢工業大学大学院客員教授

日時 2022年11月26日(土) 13:30～15:30  
参加方法 オンライン (Zoom)  
参加対象 正会員 (東京都市大学・武蔵工業大学・東横学園女子短期大学卒業生)、  
準会員 (在学生)、特別会員 (全教職員)  
定員 500名 (先着順)  
参加費 無料  
申込方法 <https://rs.bz/tcu/m?#1052>  
お問合せ先 東京都市大学校友会 [kyokukai@tcu.ac.jp](mailto:kyokukai@tcu.ac.jp)

主催 東京都市大学校友会

～人生100年時代～  
生涯キャリアサポートプログラム

人生100年時代と言われる、また各企業などで活躍する現役世代が求められる社会環境は大きな変化が予測されます。大学の卒業生がその環境の変化に早く気づき、自らのキャリア形成に向けた方向や具体的な取り組みについて整理し、変化に対応する準備活動を始める情報やきっかけを校友会が提供するプログラムです

「人生100年時代のマネープランを考える」  
～30代～50代で知っておきたいマネー知識～

講師 奥村 彰太郎 氏  
一般社団法人 ビューティフル エージング協会 理事  
NPO法人 キャリアカウンセリング協会 認定トレーナー  
株式会社リクルートキャリアコンサルティング セミナー講師・相談員

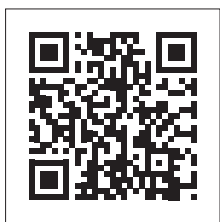
ライフプランを考える上では、お金は大切な要素ですが、学校の授業で金融リテラシーを身につける機会はないのでしょうか。人生100年時代と言われるようになり、長生き前提で生き方や働き方考える時代、お金の知識が、ますます重要になってきました。難しくなりがちなお金の話をわかりやすくお伝えすることで、ご自身のライフプランやキャリアプランを考えるきっかけにしたいだけではありません。

日時：2023年5月27日(土) 12:30～15:30  
主催：東京都市大学校友会  
参加対象：会員 (東京都市大学・武蔵工業大学・東横学園女子短期大学卒業生)  
参加方法：オンライン (Zoom)  
定員：20名 (先着順)  
参加費：無料  
テーマ：「人生100年時代のマネープランを考える」  
～30代～50代で知っておきたいマネー知識～  
講師：奥村 彰太郎

## 都市大校友オンラインの紹介

東京都市大学と東京都市大学校友会では、会員への情報提供に関わるサービス向上を図るため、「都市大校友オンライン」の運用を行っております。

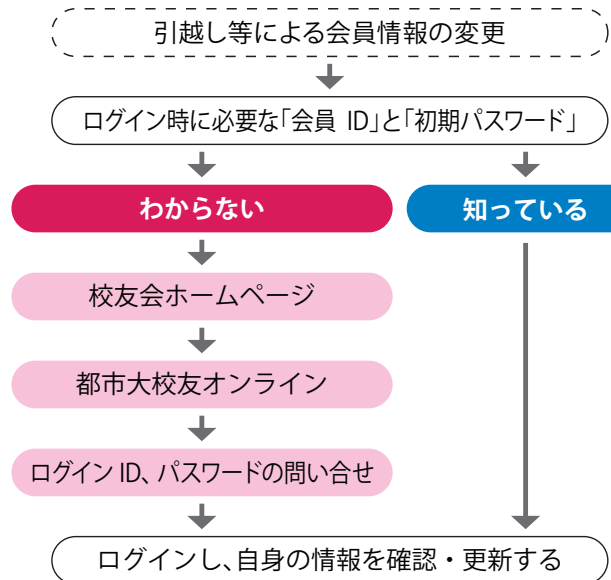
- 「都市大校友オンライン」による web 版会員名簿では、開示されている情報の検索・閲覧ができます。
- web 版会員名簿の会員情報開示の可否は会員自身で設定できます。
- 「都市大校友オンライン」にログイン・登録された方には、校友会イベント等のメール案内を行っております。



<https://tcu-alumni.jp/new/tcu-online/>

### 「都市大校友オンライン」に ログイン・登録をお願いします

「都市大校友オンライン」は、校友会イベントのご案内配信等様々な場面で利用され、導入の成果を上げています。しかし、残念ながらログイン・登録された方は、全会員の16%に留まっています。より多くの方に登録していただくことが「都市大校友オンライン」の利用価値の向上に繋がります。



# 支部だより

2023年12月以降に開催されました支部総会の様子をお知らせいたします。2024年は12月まで33支部で総会が開催されています。支部総会へは皆川会長はじめ副会長・常任幹事他が本部から参加されました。都市大の近況をお知らせしたり支部のみなさまとの交流を深めるために大学教職員のみなさまがご都合のつく支部に行っております。また、川崎、大阪・奈良、熊本の3支部に新聞会の学生が取材に行きましたので都市大新聞に支部の様子が掲載される予定です。今後は支部の活性化を目的に教職員のみなさまや学生の支部派遣を勧めて行く予定です。

石川支部 2024/02/03 (土)



徳島支部 2024/06/06 (木)



東京支部 2024/2/18 (日)



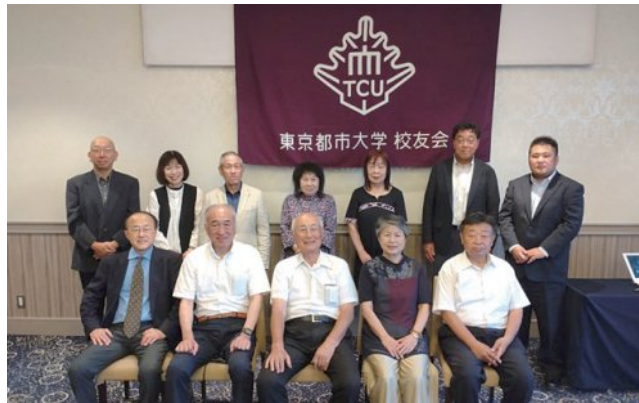
広島支部 2024/06/08 (土)



神奈川・湘南支部 2024/2/24 (土)



岩手支部 2024/06/15 (土)



島根支部 2024/05/25 (土)



静岡支部 2024/06/22 (土)



栃木支部 2024/06/22 (土)



鳥取支部 2024/07/06 (土)



群馬支部 2024/06/29 (土)



富山支部 2024/07/20 (土)



秋田支部 2024/07/06 (土)



山形支部 2024/07/20 (土)



千葉支部 2024/07/06 (土)



福島支部 2024/7/21 (日)



# 支部だより

東海支部 2024/8/24 (土)



新潟支部 2024/10/19 (土)



埼玉支部 2024/09/07 (土)



大阪奈良支部 2024/10/26 (土)



鹿児島支部 2024/9/14 (土)



宮城支部 2024/10/26 (土)



横浜支部 2024/9/21 (土)



福井支部 2024/10/26 (土)



川崎支部 2024/10/19 (土)



青森支部 2024/10/27 (日)



兵庫支部 2024/11/17 (日)



北海道支部 2024/11/08 (金)



和歌山支部 2024/11/17 (日)



大分支部 2024/11/09 (土)



熊本支部 2024/11/24 (日)



佐賀支部 2024/11/16 (土)



福岡支部 2024/12/1 (日)



# サークル活動紹介 (アイスホッケー部)

## 第7代(前)監督 三木 正智

東京都市大学アイスホッケー部創部65周年記念式典において、OB・OG、現役部員を含む総勢140名が一堂に会し、盛大に開催されました。今年の節目では、OB会長が第5代津川俊之さん(昭和53年度卒)から第6代松本浩一さん(昭和58年度卒)へと引き継がれ、新たなリーダーシップのもと、OB会と現役部員の更なる発展が期待されます。

式典には、東京都アイスホッケー連盟会長の江守秀次様、そして東京都市大学学長の野城智也様というご来賓の両方にもご出席いただき、現役部員たちに対して熱い声援と激励を賜りました。お忙しい中駆け付けてくださったことに、改めて感謝申し上げます。

現役部員たちは、夜遅くまでの練習にもかかわらず、学業との両立に苦しみながらも、日々前向きにアイスホッケーに取り組んでいます。アイスホッケーは他のスポーツとは異なり、大学から競技を始める部員がほとんどです。ゼロから同じスタートラインに立ち、まずはスケートを習得し、次にスティックワーク、そして実戦へと進む段階的なプロセスが特徴です。初心者たちが毎年、着実に成長し、迫力あるプレーを見せる姿は、私たち指導者もいつも驚かされ

ています。

さらに、多くの部員がアルバイトをしながら高額な部費を自ら支払い、練習と勉学に励んでいます。このような努力がついに2023年度、関東大学アイスホッケーリーグ戦 Division IVで全勝優勝という結果に結実し、Division IIIへの昇格を果たしました。現役部員たちの素晴らしい活躍を誇りに思います。

私も第7代監督として指導にあたった経験から、部員たちがいかに努力を重ね、成長してきたかを深く感じております。特に、結果がすぐに出なくとも、彼らがアイスホッケーに費やしてきた時間と努力は、社会に出た後も必ずや大きな財産となるでしょう。部員たちにはその自信を胸に、今後も成長し続けてほしいと心から願っています。

東京都市大学アイスホッケー部は、65年という長い歴史の中で、先輩たちの熱意と努力に支えられ、ここまで発展してきました。これからも、先輩が後輩を導き、後輩は先輩を敬いながら、さらに部の伝統を引き継いでいくことでしょう。OB会と現役部員が丸となり、新しい挑戦に向けて前進していくことを、私たち全員で期待しております。



第5代津川 OB会長



4年水谷主将



第5代第8代森本監督



## ■機械工学科

主任教授 白木 尚人 (1991機械)

卒業生の皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。2024年度の機械工学科の近況をご報告させていただきます。本年4月2日に入学式が行われ、機械工学科は108名の新入生が入学致しました。そのうち、中国と韓国から7名の留学生がおります。入学後は、ガイダンスを行います。4/8(月)、4/9(火)の2日間、日帰りです学内外にてフレッシュャーズキャンプを行いました。学外では大森付近の体育館を借りて、クラス対抗大縄跳び大会を実施しました。これは、大縄跳びを通じて、クラスの交流を深めて貰う目的で行っています。たかが大縄跳びかとお思いでしょうか、約15名で回す人の技術、跳ぶ人達の呼吸とタイミングが合わないと、数多く跳ぶことができません。クラスの仲間とのコミュニケーションが活発なクラスほど、数多く跳ぶことができます。大会後は、仲間との会話も弾んで和やかな雰囲気となっていました。

次に就職の状況としては10月末時点での内定率は学部生で約88%、大学院生が92%となっております。大学院への進学は47名で、約44.3%の学生さんが進学します。就職状況は人手不足を反映して、理工系、機械系の学生は各企業からもニーズが高く、好調な就職状況となっております。



大縄跳び

## ■機械システム工学科

主任教授 秋田 貢一

機械システム工学科では2024年4月に新入生104名を迎えました。入学後のフレッシュャーズキャンプでは、未来の機械システムをテーマとしたグループワークや、学科のスタッフ、先輩学生との交流を通じて新入生のモチベーションを高めてもらいました。8月4,5日に開催されたオープンキャンパスは昨年以上に盛り上がり、本学科の説明会では毎回100名以上の高校生・保護者の皆様にご参加いただきました。8月7日は高校生が参加する探求型体験プログラムであるオープンミッションの最終日でした。このイベントにおける本学科が提示したMISSIONは、宮坂教授による「オーゼティックなものを作る」であり、宇宙の展開構造物に通ずるものです。参加者の高校生10名は提示されたMISSIONに4月から取り組み、最終日のプレゼンではお互いの成果を確認し合うなど、とても楽しんでいる様子でした。

この4月には、熱流体システム研究室の白鳥 英先生および高能機械制御研究室の関口和真先生が教授に昇格されました。両先生には今後の益々の活躍が期待されます。また、9月に2024年度の東京都市大学賞の授賞式が執り行われ、当学科からは藪井准教授に「優秀研究賞(若手研究者奨励賞)」、そして森光技士に「優秀教育賞」が授与されました。後者の賞は、森光技士の長年にわたる製図教育への貢献や、製図教育の方法論に関する複数の学会発表実績などが高く評価されたものであり、本学における技術系職員的重要性を改めて示すものです。

これからも学科教職員一同、教育・研究に精力的に取り組んで参ります。校友会の皆様のみますますのご健康とご発展を祈念いたしますとともに、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



フレッシュャーズキャンプでのグループワーク (2024年4月 於:TKPガーデンシティ神保町)

## ■電気電子通信工学科

主任教授 野平 博司

4月のフレッシュャーズキャンプは、前年度と同様に、宿泊不可・学外可ということで、初日は、教務ガイダンス後、午後には2つのグループに分かれてNTT技術資料館あるいは東芝未来科学館の見学をしました。2日目は、こどもの国で10人程度の班ごとに分かれて飯盒炊飯を行いました。薪割りから始めて、みんなでカレーライスを作って食べました。最初はどの班もよそよそしい感じでしたが、食後は、和気あいあいという感じで新入生の雰囲気明るく感じられ、一緒にご飯を作って食べるのは、効果的と再認識しました。2024年の学科の主なニュースは、(1)電力エネルギー応用に向けた超低消費電力デバイスの研究が専門の山田先生が着任されたこと、(2)リム先生が退職され、産業総合技術研究所に移られたこと、(3)新10号館二期工事が終わったこと(写真2024年12月3日撮影)です。新棟の教室と研究室は、廊下から室内の様子が見やすくなる工夫がされていて、大型液晶モニターやスクリーンが複数配置されて議論が行いやすくなっています。ぜひ見学に来ていただければと存じます。また、文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」に採択された、東京都市大学の「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラムは、2025年度から全学展開される予定です。最後に、令和6年度の就職状況は、90%内定(11月末時点)です。これからも100%を目指して教職員一同学生指導を工夫して行きます。

学科の最新情報は、学科のHP(<https://www.tcu.ac.jp/academics/science/electricalandcommunication/>)などをご覧ください。



## ■医用工学科

主任教授 和多田 雅哉 (1984電気)

医用工学科(2007年開設、2013年名称変更)は創設18年目となります。2024年現在の研究室構成は、臨床器械工学研究室(森教授、和多田)、生体計測工学研究室(京相教授)、医用電子工学研究室(桐生教授(2025年3月定年退職予定))、医用材料工学研究室(桃沢准教授)、細胞・組織工学研究室(坂口准教授(2025年4月「再生臓器工学研究室」として分離・新設予定)、小林講師)の5研究室体制にて運営しております。その他、実験・実習室の管理運営を担う実習管理室(柴田技士)があります。

新入生フレッシュャーズキャンプは、「普通救命講習」および「飯盒炊さん(カレーライス)」を実施しました。特にカレー作りは、研修目的の「学友や教職員との親睦をはかる」ことができました。これからの学生生活が豊かになることを期待しています。

卒業生の多くは、医療・医用機器の設計開発などの学際・境界領域の研究・開発者や技術者となり活躍しています。本学科は女子学生の比率が高く、学際・境界領域への関心が高まっていることを示していると考えられます。今後も、「医用工学」分野への志望に対して、教育・研究活動を強化していきたいと考えております。



普通救命講習の様子

## ■応用化学科

主任教授 黒岩 崇

「応用化学科」に名称変更した2021年度の入学生が4年生になり、全学年に応用化学科の学生が在籍することとなりました。2024年度は70名の新入生を迎え、2024年10月現在で317名（うち女子学生111名、留学生6名）が応用化学科/エネルギー化学科で学んでいます。4月のフレッシュャーズキャンプでは、学科研究会（化源会）上級生の協力のもと、1日目は学内でのグループ研修と交流会、2日目は上野公園と国立科学博物館での学外研修を行い、新入生同士ならびに上級生や教職員との交流を深めました。8月に行われたオープンキャンパスでは2日間で500名を超える高校生・保護者の皆様に来場いただき、学科説明会場は立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。また、通常の授業日にも東京・神奈川エリアの高校生が学科フロアの見学に来るなど、多くの皆様に注目いただけていることを嬉しく思います。

学科運営では、11研究室、12教員の指導体制で日々の教育と研究にあたっています。多様化し複雑化する社会課題を「化学の力」で解決に導く人材を育成するため、教職員一同、一層努力してまいります。校友会の皆さまには、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。



オープンキャンパス 学科説明会場



オープンキャンパス 学科展示会場

## ■原子力安全工学科

主任教授 鈴木 徹

原子力安全工学科では2024年度に46名の新入生を迎えました。新型コロナが落ち着いたことを受けて2022年度から再開されたフレッシュャーズキャンプですが、2024年度には日本原子力研究開発機構の大洗研究所を訪問しました。また、大洗わくわく科学館にて原子炉の実寸大オブジェや燃料集合体の模型を見学し、実際の原子炉のスケールを実感しました。翌日には新入生全員を世田谷キャンパスの大教室に集め、放射線測定のグループワークを実施しました。このグループワークでは、各グループがキャンパス内の自然放射線測定し、グループ発表を通して放射線に関する知識を深めました。

世田谷キャンパスでは、敷地の約1/3に相当する建物をリニューアルする工事が進められています。2022年度の第1期工事の完了後、原子力安全工学科の全研究室は新10号館の最上階フロアに移転しました。2024年度には第2期工事が完了し、卒業生の皆さんが過ごされた旧10号館跡地には新たな建屋が建てられました。

本学科では、ここ数年の日本国内における原子力に対する期待の高まりに応えるべく、学生の意識の醸成、研究教育環境の整備、教員数の増強に努めており、数年後の「都市大創立100周年」に向けて更なる発展を目指しています。今後も優秀な人材を社会に送り出すべく、積極的な活動を展開してまいりますので、ご支援・ご指導の程、宜しくお願い申し上げます。



大洗わくわく科学館にある原子炉実寸大オブジェの前で新入生の記念撮影

## ■原子力研究所

原子力研究所所長 佐藤 勇

都市大・原子力研究所の活かし方

都市大・原子力研究所は、1960（昭和35）年に開設されました。開所以来、小型の研究用原子炉を活用し、原子炉の中性子を利用した癌治療や、放射化分析法による極微量元素分析など、国際的にも注目を集める成果を挙げてきました。しかし、1990年12月末、原子炉の照射室の壁床面に水の浸み出しがあり、原子炉の運転を停止し、長期間の検討の末、2003年に原子炉施設を廃止することを決定しました。

ところで、温室効果ガスの放出をしない電源として、全世界的に原子力発電の注目度が高いことが感じ取られます。安全はもとより、社会ニーズにこたえることができる原子力発電・原子力利用を創造していくことは更なる研究と社会へのアピールが必要となります。さて、この動きに、20年以上前に原子炉を閉じた都市大・原研がどのような貢献ができるでしょうか。

都市大・原研には廃止措置の段階にある原子炉のほか、様々な研究のためのインフラと機器が備わっています。冶金観察機器に関しては世田谷キャンパス・ナノテクセンターなどとは比較になりませんが、都市大・原研では指定された数量以下での放射性同位体が利用でき、尚且つごく微量のγ放射体の検出が可能でゲルマニウム半導体検出器が複数台設置されています。また、陽子線を照射できるタンデム加速器が運用されており、種々の検出器を組み合わせた放射線計測が可能です。

都市大・原研の将来をどう描くか？この命題は我々研究者だけの考えでは大した解は得られないのではないかと思います。そこにヒントをあたえてくれると考えているのが、地元の方々とのお勉強会活動・レクリエーションです。このような活動を通じて、原子力がどのように地元の人たちに見られているのか確認しながら、当該施設の運営に努めていこうと考えています。



都市大・原研の航空写真

## ■自然科学科

主任教授 橋本 義武

自然科学科は定員25名で発足してから2024年度で16年目となります。理工学部自然科学科となってからは5年目、現在の定員は60名です。歴史ある他学科の皆さまから教えられ支えられて歩んで参りました。2019年度の水害、2020-22年度のコロナ禍と、厳しい状況が続いており、学科の教育だけでなく全学の数学・理学の基礎教育をも担っている自然科学科各教員は、オンライン授業への対応等で多忙を極めておりましたが、学生さんたちのため、本学の発展のため我々にできることをしっかりやって参りたいと思っております。

この場をお借りして自然科学科メンバーの2024年の研究活動を一部ご紹介いたします。中島保寿准教授らの研究グループは日本最古のウミガメ類となる骨化石を、鹿児島県の約1億年前の地層から発見しました。また、1986年に香川県で発見された背骨化石を白亜紀のさまざまな恐竜やその他の爬虫類と比較し、同化石がハドロサウルス類の背骨であることを同定しました。西村太樹准教授らの研究グループは、宇宙観測技術をベースとした多層半導体コンプトンカメラを用い、原子核から放出されるガンマ線の偏光をとらえ、原子核の内部構造を明らかにできることを示しました。福田達哉教授らの研究グループは、溪流沿い植物における水流ストレスの低減には葉の主要部分である葉身（ようしん）だけでなく、葉身と茎をつなぐ葉柄（ようへい）の形質も変化させてきた可能性を明らかにしました。





## ■建築学科

主任教授 岩下 剛

2024年度は、一昨年の142名、昨年の144名に比べ少ない115名の入学者となり、定員120名を少し下回ることとなりました。各学年での入学定員ではなく、4学年を通しての定員管理という状況の下、教育効果としても適正な人数ではないかと思えます。入学後、最初の行事であるフレッシューズ研修は、今年も宿泊はせず、1日目午前は学内製図室でレクチャー、1日目午後はグループごとに分かれ、翌日の学外での見学コースに関する検討、2日目午前は学外でグループごとの建築見学、2日目午後は学内製図室で見学レポートの作成という内容になりました。写真1、写真2に提出されたレポートの一部(スケッチ)を示します。製図室での研修は、その後、製図室にて行われる設計基礎(1)やSD-PBL(1)の授業へのイントロダクションとして有効なものであったのではないかと思います。

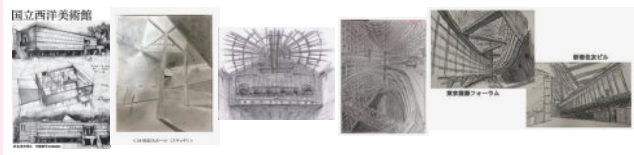
建築学科は2020年4月に建築都市デザイン学部建築学科として教育研究を開始しましたが、2024年3月に完成年度を迎え、2024年4月からは次の展開が期待されます。コロナ禍という状況も顕著ではなくなり、講義、大学祭も含め、ほぼコロナ禍前の従前どおりの大学生活となつています。

新規教員として、2024年4月に建築環境設備分野の准教授として須藤美音先生が着任されました。大学院も含めて建築環境設備分野の授業全般に関与いただきます。須藤先生は実務経験の後、名古屋工業大学で14年間、教鞭をとっておられました。先生の建築環境設備に関する知識や技能が授業や研究等を通して学生に伝わることを期待しています。

建築学科では2023年度入試から総合型選抜推薦入試(二段階型)の二次選考における適性検査として空間構想力試験を課しています。ドローイングという従来の総合型選抜の入試とは異なる方式により、新しい視点をもつ高校生の入学が増えることを期待しています。

この入試方式と連動する形で、オープンミッションという入試イベントが実施されており入試アピールのイベントとして従来は模擬講義等を実施してきましたが、2022年からのオープンミッションとして、鉛筆ドローイングのミッションを高校生に課す内容を実施しています。学科教員からオープンミッションに参加する高校生に向けて、ドローイングのテーマを与え、参加者が作成したドローイングを6月の日曜日に製図室に持参し、参加者全員の前でプレゼンテーションする機会を持ちます。教員によるコメントを受けた後、再度、ドローイングを作成し、8月の二回目の登学時に、再度プレゼンテーションを行います。2024年度は26名の高校生参加者がありました。

年明けに行われる一般選抜入試、年内に実施される学校推薦型入試、公募入試、付属高推薦に加え、上記のドローイングを課した総合型選抜推薦入試等、多様な入試形態を介して学生は入学してきます。多様な資質や能力を持つ学生が建築学科に集まることで、有機的な教育環境が構築され、学科全体の研究教育活動が活性化することを期待しています。



フレッシューズ研修レポートの一部

## ■情報科学科

主任教授 向井 信彦

情報科学科の近況報告を致します。2023年度の卒業生は87名で、2024年度の新入生は104名でした。2023年度に続いて入学式は体育館にて対面で開催されましたが、入場制限があり、一般教員はライブ中継の視聴でした。ただし、保証人への教職員紹介は開催することができ、久しぶりに保証人に対して本学科の状況をお伝えすることができました。また、新入生にも1年生のクラス担任ガイダンスで対面にて教職員紹介をすることができました。フレッシューズキャンプは2023年度と同様、宿泊を伴わない2日間開催で、初日にポスター発表と履修相談を行い、2日目にバスでマザー牧場まで日帰り旅行をしました。学科の教員ですが、横山教授がご定年となり、2024年3月をもってご退職されました。横山先生は本学科の主任教授だけでなく、大学院情報専攻の専攻主任教授や情報工学部の学部長など要職を歴任され、本学科のみならず本学の発展に貢献されました。また、陳准教授は九州大学に移られました。陳先生は短い期間でしたが、若手優秀研究者賞を受賞されるなど研究面で貢献されました。一方、前期には中村准教授が、後期には佐々木准教授が新たに着任されました。中村先生はKDDIのご出身で、セキュリティをご専門とされています。また、佐々木先生は本学武蔵工業大学のご出身で、湘南工科大学で教鞭を執られた後、本学に戻って来られました。お二人の先生には今後のご活躍に期待しております。授業は対面が原則となり、事情のある場合のみオンライン受講も可能となっています。留学プログラムTAPも計画通りの実施となり、中国やマレーシアなどからも多くの留学生がキャンパスに来ることで、異文化交流も盛んに行われています。就職状況は改善しているものの、精神的に弱い学生も多く、個々の学生に寄り添ったきめ細かい教育と研究を模索している状況です。今後とも、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



フレッシューズキャンプ(マザー牧場)にて

## ■都市工学科

主任教授 白旗 弘実

異動ですが、吉田郁政先生が2023年度をもって定年退職されました。吉田先生は確率の都市工学への応用として分布推定、情報更新などをご専門に平成17年度から本学で教育・研究を行ってこられました。ありがとうございました。新任の先生として、珠玖隆行先生と小野村史穂先生が着任されました。珠玖先生のご専門は吉田先生に近くデータサイエンスですが、地盤を対象とするものが多いそうです。小野村先生は都市の気象学、ヒートアイランド、集中豪雨などがキーワードです。よろしくお願いたします。

2024年8月に10号館の第二期工事が終わりました。写真は工事が終わった新校舎です。

2023年度のJABEEの中間審査を受けました。コロナウイルス流行で2024年度まで変則的な対応となります。10月の初旬に遠隔で行われ、無事に認定を得ることができました。次は継続審査で2026年度に受審します。

土木学会全国大会他発表会で学科、大学院の学生が優秀発表者賞を受賞しています。大学、学科のウェブページをご覧ください。

見学会、インターンシップ説明会、OB・OG懇談会、会社説明会など、柏門技術士会や校友会、卒業生の皆様の支援を受ける機会も増えています。この場を借りてお礼申し上げます。



10号館(左が二期工事, 中央と右が一期工事)

## ■知能情報工学科

主任教授 神野 健哉

知能情報工学科では、2024年度に定員80名に対し81名が入学し、そのうち22名(約27%)が女性でした。毎年新入生を対象に実施している2日間のフレッシューズキャンプでは、一日目に「さがみ湖リゾート プレジャーフォレスト」でバーベキューを楽しみ、学生同士の親睦を深めました。二日目には、大学にてアイロボットジャパン代表執行役員社長の挽野元氏をお招きし、新入生に向けて「大学で学ぶ意味」をテーマにご講演いただきました。その後、iRobot ルンバを用いたプログラミング演習を行い、プログラミング未経験の新入生もビジュアルプログラミングを使ってルンバを自動制御する課題に挑戦しました。これにより、知能情報工学への興味を高める貴重な体験ができたようです。

2024年度からは、専門科目である「プログラミング」や「知能情報数学」を再編し、「人工知能」分野の科目を強化するとともに、「知的経営システム」や「大規模データ解析」分野のカリキュラムも精査しました。人工知能への関心が高まる中、知能情報工学科への求人数は増加しており、卒業生の就職状況は好調です。また、大学院進学者や社会人博士課程の入学者も増加しています。今後とも交友会の皆さまのご支援をお願い申し上げます。



さがみ湖リゾート プレジャーフォレストでのBBQ



iRobotルンバを用いたプログラミング演習

## ■都市生活学科

学部長 宇都 正哲

都市生活学部の近況としては、今年度から新しくリーラ プロビ ドリアンダ准教授が着任しました。インドネシア出身の方で、都市の文化や観光が専門の先生となります。これから都市生活学部の国際化に向けて大きな力を発揮していただけるものと期待しています。2024年からはTAPも平常に戻り、約80名の学生がオーストラリアに留学しました。また、マレーシア工科大学とのワークショップも11月に実施され、相互訪問によっていい意味での刺激を受ける取り組みも継続しています。このように都市生活学部の国際化へ向けた取り組みは多くの成果を挙げつつあります。

それから年に1回開催されていた都市生活学フォーラムも今年で3回目を迎え、渋谷 QWS にて「イノベーション・ビジネス」をテーマに開催しました。当日は野城学長も参加され、多くの企業の方とともにイノベーション人材の育成と課題などについて議論を行いました。

卒業生の就職も順調です。ここ数年は100%の就職率が継続しています。また、大学院への進学者も増加しており、大学院の在籍者が50名を超える規模にまで成長しました。社会人の大学院生も多く、卒業生の皆様もリスクリングのため大学院へ戻ってきています。



## ■環境創生学科

主任教授 横田 樹広

2024年度、新たに98名の新生を迎え、フレッシュャーズキャンプでは「YOKOHAMA グリーンインフラツアー」と称し、横浜の緑地環境資源を巡るフィールドワークを実施しました。当学科の学びは、自然の豊かさや人々のウェルビーイングの両立がゴールとも言えますが、新生が4月から現場の環境について考えている姿に、この先の楽しみが大いに広がりました。また2024年は、能登半島での地震と土砂災害をはじめ各地で自然災害が発生し、豪雨と酷暑は一段と社会に影響を及ぼす年となりました。被害に遭われた方に心を寄せるとともに、環境創生学による貢献のあり方を考えずにはられません。その中で、能登の被災地への復興ボランティアに志願した学科学生も複数おり、大変心強く感じました。

当学科では、田中章教授のご定年に伴い、新たに内田圭准教授（生物多様性保全学）が着任されました。早速新生の担任を担当されるとともに、生物多様性をフィールドで科学することの魅力と必要性を存分に学生達に伝えてくださっています。コロナ禍前の現場での実習・調査・研究が学科に戻って2年近くが経ち、改めてその尊さを学生達の背中に見る年となっています。



フレッシュャーズキャンプ 三溪園にて文化的景観を学ぶ新生入生

## ■人間科学科

学部長 大塚 習平

学科の名称変更を反映し、2023年度より2コース制を導入しました。児童学コースは、幼児教育、児童福祉等の現場で専門家として活躍する人材の育成を中心に、人間総合科学コースは、ヘルスケア産業、ソーシャルワーク、ヒューマンサービス、対人援助や異業種連携の分野で活躍する人材の育成を視野に入れております。また海外留学や海外インターンシップも推奨いたします。多様なニーズに応えていく「質の高い保育・教育」を目指し、子ども、親、人間、地域を深く理解しながら、理論と実践の両方を身につけるために、4年制の充実したカリキュラムで、時代が求める優れた人材を育成していきます。

2024年度の取り組みとして9月11日に「びっぴ20周年を祝う会」が開催されました。その際これまで施設運営に貢献されてきた教職員および保育士の皆様合わせて約50名が参加されました。2022年6月に等々力キャンパスからの移転に伴い、より過ごしやすい環境にリニューアルされた「びっぴ」見学会の後、情報交換会や座談会が行われました。その後の懇親会は、かつて「びっぴ」を支えた先輩と現在「びっぴ」を支えている皆さんが、世代を超えて親交を深める素敵な空間となりました。

2024年10月9日に、フィンランド大使館広報部プロジェクトコーディネーターの堀内都喜子先生による学術講演会「フィンランドの子育て支援と幼児教育～人は一番の資源」が開催されました。日本とは異なる子育て支援策、ワークライフバランス、文化、税制度など、多くのことを教えていただきました。学生からは「新しい視点が増えた」「日本も真似してほしい」等の声があり、多くの学びが得られました。



堀内先生による学術講演会の様子



座談会(上)と懇親会(下)の様子



座談会(上)と懇親会(下)の様子

## ■環境経営システム学科

主任教授 岡田 公治

本学科は2024年度、101名(男子72名、女子29名)の新生を迎えました。4月のフレッシュャーズキャンプでは、横浜港周辺施設の海上視察(横浜港クルーズ)が荒天により残念ながら中止となり、神奈川県立歴史博物館の見学のみとなりましたが、後援会をはじめ多くの方々のご支援により、8月に海上視察を復活実施できました。

持続可能な社会の実現(環境問題だけでなく社会問題・経済問題の同時解決)が叫ばれるなか、国や地方行政、NGO、個人の活動のみでなく企業活動への期待が高まっています。企業経営は環境・社会問題の解決に貢献できる製品/サービス/ソリューションにより競争力を高める戦略が主流となりました。環境学と経営学の融合領域への期待は益々高まっています。今年度は木下幸雄先生が新たに加わり、農業ビジネスの視点から食糧問題に取り組む「アグリフード・システム」研究室が新設されました。学生による学会での研究発表や、エコプロダクト展への研究展示なども活発に行われています。

近況は、学部ホームページ("https://fes.tcu.ac.jp/")に随時ニュースとして掲載していますので、是非ご覧ください。



海上視察での飯島学部長挨拶

## ■社会メディア学科

主任教授 奥村 倫弘

社会メディア学科在籍中に地域連携や住民参加をテーマに卒論を書いた卒業生もいらっしゃるのではないのでしょうか。現在、岡部大介先生をリーダーに中村、小池、山崎、奥村各先生がメンバーとなって「地域連携・地域貢献における重点推進プロジェクト」を進めています。2025年度までの3か年のプロジェクトで、「つづきジュニア編集局」（中村先生）や「模擬人工衛星を使ったワークショップ」（小池先生）の地域貢献活動が進んでいます。懐かしいですか？ 卒業生視点からのアイデア提供やプロジェクト参加があれば大歓迎です！

また、2024年春より、中国ご出身の周娟（しゅう・けん）先生が社会メディア学科に着任されました。教育学がご専門です。周先生から見た学科学生の印象は「明るい学生が多い」こと。現在、社会調査実習やSD-PBLなどの授業を受け持ちされており、3年生10名の研究指導にもあたっています。数ある学校行事のなかでも「横浜キャンパスホームカミングデー」の催しは有意義だとおっしゃっていて、「卒業生の皆さんが参加して下さることを楽しみにしています」とのメッセージを寄せています。どうぞ、お越しください。



周娟准教授

## ■情報システム学科

主任教授 増田 聡

情報システム学科では、情報システムをプロデュースできる人材を育成するため、様々な活動を行っています。2024年4月の新入生の交流を図る「フレッシューズキャンプ」では、「ぶちアドベンチャーゲーム in 横浜」と題して、横浜周辺に数か所あるチェックポイントを巡りながら、メンバー同士で親睦を深めながら散策を行うゲームを開催しました。社会メディア学科と合同で、在学学生の学生会から先輩の参加もあり全体で約220名の参加です。開催日当日はあいにくの大雨となりましたが、記憶に残るイベントとなりました。2024年8月のオープンキャンパスでは、今年も多くの高校生と保護者が横浜キャンパスに来場されました。情報システム学科では2つの研究室展示(ソフトウェア工学、組込みシステム)を行い、多くの来場者に関心を持っていただきました。また、横浜キャンパスの学園祭である「横浜祭」は2024年も9月開催で学生による飲食やゲームなどの模擬店が多く出店され、盛況に開催されました。これらのように、情報システム学科では、学生に多くの機会を設け、より良い人材の育成を目指しています。校友会の皆さまには、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



雨の中「ぶちアドベンチャー」の説明を聞く  
(フレッシューズキャンプ)



研究室展示  
(オープンキャンパス)

## ■総合研究所

所長 野中 謙一郎

東京都市大学総合研究所は、平成16年4月に武蔵工業大学総合研究所として等々力キャンパスに設置され、以来、本学の特色ある先端的研究を推進すると共に、大学院生、学部生に対し、先端的教育環境を提供して参りました。

2024年度の研究組織は、計12の研究センター・研究ユニットを中心に、未来都市、ナノエレ、インフラ、水素エンジン、地盤、子ども・福祉、ロボット、災害制御、太陽電池、マイクロシステム、宇宙科学、ウェルビーイング、バイオテクノロジーなど幅広い分野で研究を進め、外部資金を獲得しながら研究を推進するとともに、総研セミナーによる研究紹介や成果報告を行っています。

オープンキャンパスでの総研オープンラボの開催、JSTの次世代研究者挑戦的研究プログラム選抜学生が企画した研究発表会での研究発表・ポスターセッションなど、学生の育成にも取り組んでいます。

さらにFUTURE-PV研究室の小長井誠特別教授が春の叙勲で「瑞宝中綬章」を受章されました。今後も大学全体の研究をリードしながら、幅広い活動を展開して参ります。



世田谷キャンパス6号館(左)とオープンキャンパスの会場



## ■ナノ科学技術学際研究センター

センター長 野平 博司

2023年5月にコロナがインフルエンザと同じ5類に変更されたように、2020年から始まったコロナ禍もだいたい落ち着いてきたことと存じます。ナノ科学技術学際研究センターにおいても、感染対策を行い、また“3密”を避けるということに留意して活動を行っています。4月から11月までの利用件数も、2020年度865件から、2023年度1271件、今年は1213件と、ほぼ例年通りの利用に戻りました。また、対面で開催されたオープンキャンパス(8/4、5)での見学会や高校の見学会(6/28 浦和実業学園高等学校2年生35名、11/14 東京農業大学第二高等学校(1年生)40名ほか)、さくらサイエンス、明星大学の見学(3名)をはじめとして11月末までで10件の見学会が行われました。それ以外にも8/30に学会(SCAN TECH 2024、日本顕微鏡学会 走査電子顕微鏡分科会)を開催するなどコロナ前よりも活発になっています。また、12月以降にも、学会(SCANTECH 2025)や高校の見学会などの開催を予定しております。本年度のトピックは、機器更新が認められ、2025年2月にリガク(株)の粉末X線回折装置 SmartLab/PW/CB/AI が導入される予定です。本学の研究活動を支援するために、新しい機器の説明を含めた機器分析セミナーの開催やSCAN TECH 2025の本学現地での開催などを予定しています。



ジョゼイ・ケニヤッタ農工大学(JKUAT)の学生の見学風景

## ■共通教育部

### ●人文・社会科学系

主任教授 山本 史華

本学系は人文・社会科学教育・体育教育・教職教育の3部門から構成されています。

#### ◎人文・社会科学教育部門

教授 山本 史華

人社部門には6名の教員が所属しています。3月に定年退職された新保良明先生の後任として、4月から増永理考先生が着任されました。古代ギリシア・ローマ史が専門で、本学では「西洋史(1)(2)」「西洋経済史」「都市の社会史」などの科目を担当されています。この春には研究書『ローマ帝国を生きるギリシア都市 小アジアにおける文化・経済のダイナミクス』(京都大学学術出版会)を上梓され、学界でも新進気鋭の研究者として注目されています。本学にも新しい風を吹き込んでくれることを期待しています。



増永理考准教授

#### ◎体育教育部門

教授 久保 哲也

現在、体育教育部門はSC3名、YC1名で構成されており、教育・研究はもちろんのこと、学生部長や学生部委員、ハラスメント相談室や体育会顧問、様々な課外活動の顧問など多方面で大学運営業務に積極的に取り組んでおります。

今年度は4年ぶりに3泊4日の集中授業「スキー・スノーボード」を開講し、大自然の中で技術向上と学科を超えた交流が実現しました。実習後の学生の充実した感想から、実りある授業になったと感じております。



集中授業「スキー・スノーボード」の授業風景

今後も学生の心身共に健全な発育・発達に貢献できるよう、部門一丸となって更なる努力をしていく所存です。

#### ◎教職教育部門

教授 井上 健

2024年4月、殿村洋文先生(教育講師)の後任として、平山勲先生(教育講師)が着任されました。平山先生は、都内の私立中学校で長く教鞭を取られ、本学では「技術科教育法」「教職実践演習」「採用試験対策ゼミ」などを担当しています。「教科教育こそが子どもたちを知的に成長させる核」であり、授業では「科学的なものの方見方を身につけさせるために適切な内容と方法がなければならない」と、教職をめざす学生たちを温かい目で鍛えてくださっています。平山先生、どうぞよろしくお願いいたします。



平山勲教育講師

### ●自然科学系

主任教授 田邊 頭一郎

共通教育部自然科学系は、数学教育部門と情報教育部門から構成されており、2024年度は8名の専任教職員、50名以上の非常勤講師という体制で、主に理工学部・建築都市デザイン学部・情報工学部の工学系基礎科目の教育と研

究を担当しています。また、物理学教育部門と化学・生物・地学教育部門については自然科学科の教員が担当しており、数学教育部門については自然科学科の教員と連携して教育を行っています。これまでと同様に、大学院総合理工学研究科の共通教育も担当しています。コロナ禍でのオンライン授業で開発した新しい指導方法や教材などを活用し、高いレベルの授業を提供できるよう非常勤講師の先生方も含め全員で努力しています。

#### ◎自然科学系/数学教育部門

田邊教授、井上准教授、古田准教授、出未准教授、河合教育講師の5名体制となっています。自然科学科の橋本教授、中井准教授、服部准教授と連携して教育研究活動を行っています。講義に関して非常勤講師の先生方と意見交換を行う打ち合わせ会の、対面での開催を復活させました。活発な意見交換ができました。

#### ◎自然科学系/情報教育部門

昨年度で山口教授が定年退職されましたが、新たに白鳥教授をお迎えし、安井講師、千葉教育講師の3名体制で、主に理工学部・建築都市デザイン学部の情報基礎教育を行っています。また、情報基盤センターやICT推進室、教学IRセンター等、全学に関係する情報、データに関する組織の整備・運営にもセンター職員と協力して参画しています。

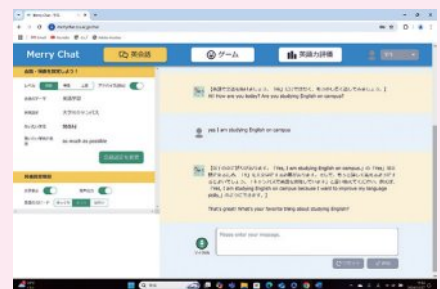


新着任の白鳥教授

### ●外国語共通教育センター

主任教授 佐竹 幸信

外国語共通教育センターでは、教育講師を含めた12名の専任教員と38名の非常勤講師で、全学の外国語教育を担当しています。ここ数年で日本の外国語教育のあり方も大きな様変わり呈するようになりました。コロナ禍により促進したオンライン学習もその一つですが、特に生成AIの発達により、コンピュータ相手に英会話をしたり、英文を書いてもらったりすることが可能となりました。こうした生成AIの可能性に着目し、当センターは業者とともに英会話学習システム(名称:Merry Chat)の開発を進め、2024年度後期より授業に取り入れるようになりました。学生達は会話の状況や使いたい文法・表現等を入力するだけで、AIと簡単に会話を行うことができ、その結果発話量が大幅に増え、自律学習が促進されることを期待しています。もちろん外国語学習にとってはこれだけでは十分ではありません。幅広い選択科目を揃え、基本的な文法知識の習得、外国文化への興味の喚起、英語資格試験のサポート等に対応しています。また当センターは、韓・中・独・仏・伊・西等、英語以外の様々な外国語教育にも力を入れています。今後は留学や大学院進学を見据えた外国語教育にも力を注いでいくつもりです。



Merry Chat 英会話機能の画面

## ■機親会

会長 神田 謙一（1974 機械）

機親会総会を2024年11月30日（土）世田谷キャンパス3号館で開催しました。

出席は、オンライン出席を含め27名でした。

神田会長より、「2026年に機親会創立90周年記念総会を実施します。」との挨拶があり、白木副会長より「2024年度事業報告・計画」の説明、山田副会長より「機親会ホームページ」の紹介がありました。

基調講演はソーラーカーチーム「柏会」が2024白浜ECO-CARチャレンジ（2024年10月4日～6日開催）において、2023年に続き総合優勝した大会の様子とこれまでの「柏会」の26年の活動とその軌跡について3名（関徹也氏、福北博史氏、伊倉和弘氏）から講演していただきました。

1998年にソーラーカーチーム「柏会」を結成して、オーストラリア大陸3000km縦断完走、2021年鈴鹿ラストレース総合2位、そして2023年、2024年白浜で連覇を達成しました。

総会后、9号館1階の学生食堂で懇親会を開催しました。出席者が機親会のタスキをかけて自己紹介を行ない和やかに歓談しました。



左から 伊倉和弘氏、福北博史氏、関徹也氏



懇親会（学生食堂）

## ■電友会

会長 石田 彌（1970 電気）

2023年3月に新学科の電気電子通信工学科の学生の卒業が始まり、電友会の新入会員はゼロになり、会の継続性が失われるという状況になりました。

懸案の電気電子通信工学科の同窓会が「かがやき会」として発足することになりました。

2024年7月開催の電友会総会に「かがやき会」代表世話人の谷津由介氏を招き、「電友会」会員は「かがやき会」の会員となり「かがやき会」に「電友会」の伝統と資産と鳥山杯支援、卒業生表彰などの事業を引き継いでもらうという決議を致しました。また役員改選は「かがやき会」の設立までの間、全員再任としました。

2024年3月の卒業生の電友会長賞および電友・通友会賞は次の通りです。

電友会長賞【大学院】

（敬称略）

博士後期課程：鈴木 祐

修士課程：金澤伶奈、菊岡柊也、西郷謙伸、河野 聖、村中柊都

電友・通友会賞【学部】

相川菜由、赤堀友哉、石川 陸、大古陽生、勝亦亮介、倉辻 陽、河野嵩之、中嶋祐晴、野田慶太、森下 航

連絡先 事務局担当：鈴木憲史 denyukai@tcu.ac.jp



授与風景

## ■緑土会

会長 高橋 禎夫（1982 土木）

2024年11月9日（土）緑土会総会・懇親会がアルカディア市ヶ谷で開催されました。開催はハイブリッド形式で実施され参加者は、旧土木工学科卒52名、都市基盤・都市工卒9名、教員4名、学生21名（院1年生4名、学部3年生17名）対面参加者合計86名、web参加者21名でした。緑土会役員は本年度から会長、副会長3名が新任となり新たな体制をスタートしました。

総会では会則の改定、令和5年度経過報告と会計・監査報告、令和6年度予算執行状況の報告がありました。

今年からの取り組みとして緑土会総会と「インターンシップの勧め」、「企業研究会」の学生支援事業を関連付けて行うことに改めました。例年6月に都市工学科で開催している「インターンシップの勧め」、10月から11月に開催している「企業研究会」は都市工学科と緑土会が連携して実施してきている行事であるからです。参加された学生21名は対面参加した卒業生と活発に社会・就職・仕事に関して意見交換を進める事ができました。また、これまで多くのご協力やご助言を頂いてきた丸山教授と長岡教授は2024年度末をもって退任されるため、感謝・慰労の記念品を贈呈いたしました。



高橋会長

長岡教授

校歌を歌う卒業生



校歌を歌う現役学生



集合写真

## ■如学会

如学会会長になって

会長 手塚 貴晴 (1987 建築)

私が付属高校に入ったのは45年前。その後5年間の海外留学と修行時代を除けば、いつも武蔵工業大学にいたことになる。校名は変わったがこのキャンパスから全く出ていない。定年まであと5年。半世紀をこの場で過ごすことになった。如学会という組織を知ったのは大学三年生の時。「学生如学会というものを作るので、会長をやりなさい。」と言われた。その時は大した活動もせず、その後も何の貢献もせず60歳を迎えたのが今年の2024年2月である。

ある日突然かつて如学会会長を務められていた山岡さんからお電話を頂いた。「決まったので会長やってください。」晴天の霹靂。「そういう人格ではないし、時間もないので。」と、ひたすら固辞したが寄り切られてしまった。

付属高校生には下駄というものがあり、外からの受験生よりは簡単にいらてもらえる仕組みがある。それを活用させて頂いた。外から堂々としてきた受験生には少々引け目がある。大学時代は色々な節目でお金を頂いた。結構助かった。ペンシルバニア大学留学は、先生方のかかなり誇張した推薦状が効いた。留学しなさいと言ったのは新居先生。先生方の推しがなければ留学していない。大学の教員の就任も自分で希望した訳ではない。ある日鈴木先生から「教える気はあるか？」というダメ声の電話が始まりである。28年前のことである。

今年の2月に手塚研究室OBが還暦パーティーを開いてくれた。子供も含め出席者240名。結婚式でもないのに、大きな青いケーキが出てきて入刀式をした。ちなみに私のテーマカラーは奇しくも東京都市大学と同じ青。よってちゃんちゃんこも赤ではなく青。

私はこの半世紀一度も人生を決めていない。ふと気がつくと、その全ての節目に居たのは、武蔵工業大学と東京都市大学の卒業生であった。釈迦の手のひらのようにどこまでも広がっていて逃げることができない。過去の会長職の方々を振り返ってみると、この私は貫目が足りない。しかしここまでお世話になると逃げるに逃げられない。取り敢えずできる限りやってみようと思います。



## ■経友会

会長 海老沼 利光 (1974 経営)

### ①「ハイブリッド役員会」を実施中

ハイブリッド役員会を定例開催し、事業計画、学生支援策、予算案などを企画立案、審議しています。ハイブリッドでは、移動時間が節約でき、地方で活躍する現役役員とのコミュニケーションができる利点があります。今後も、「対面とオンライン」のハイブリッド役員会を実施します。

### ②「エビ長会」が4年目に突入

経工会(知湊会)の歴代会長を中心とした「エビ長会」が2021年度に始まり、4年が経過しました。会長経験者と経友会三役をメンバーとする「エビ長会」を継続しています。若手OB同士の情報交換や学生に対する就活支援などに取り組んでいます。

### ③学科名称の変遷と経友会

1960年に経営工学科が発足→システム情報工学科→応用情報工学科→経営システム工学科→知能情報工学科と学科名称変更がありました。2019年度の知能情報工学科への名称変更を機に、学科研究會名称が「経工会」から「知湊会」に変わりました。2023年度に、知能情報工学科最初の学生が卒業しました。時代のニーズを背景に誕生した新学科は、専門領域が改定され、経営工学系領域が変化した今日、「経友会のあり方」を議論したいと考えています。

### ④今年も「経友会ニュース」でお知らせします

活動をお知らせする「経友会ニュース第17号」を2025年5月にお届けします。1期生から700名までの会員へは郵送し、以降の会員へはメール配信します。



エビ長会リモート会議

## ■医工会

会長 小林 匠 (2011 生体医)

### 【2024年度報告】

医工会では感染症蔓延対策に留意の上、休止していたイベント等を段階的に再開しています。2024年度はさらなる活動活性化のため数回にわたりオンライン形式での会合を実施し、会長、副会長をはじめ医工会の会員による活動再開ならびに本会活動の在り方についての協議がなされました。

対面形式での交流イベントの実施や、オンライン形式を活用した医工学科の卒業生やその家族を対象にした情報交換会の実施に加え、2024年度は新たな取り組みとして、現役の学生による医工会学生会主催での企業訪問や見学のイベント開催に際し、医工会からの支援として支援金を支出するなど現役学生との交流を活性化し会員への還元事業も推進しております。引き続き会員間の交流の活性化に資するイベントの開催を予定しております。

### 【2025年度予定】

開催時期等は未定ですが医工会活動のさらなる活性化に向けての総会開催を予定しております。2025年度初頭に上記のための準備会を企画しております。

さらに、同会有志による在校生への就職活動支援や、在校生の学習・同校の教育活動への支援などを含む活動の検討を行ってまいります。

## ■原子力友の会

内山 孝文 (2001 エネルギー基礎)

～「4月の第1週目の土曜日」～

「4月の第1週目の土曜日」。この日は、原子力友の会にとって特別な日である。なぜなら、この日は毎年、王禅寺キャンパス(原子力研究所)にて催す、花見会の日だからである。2024年度も4月6日(土)に本会は開催され50名強の参加があり、在学生から

卒業生そして教職員一同に介し、たわいのない話から、自身の研究活動や人生論まで、幅広い話は尽きることなく、当日は大盛況に終幕した。このような、在學生と卒業生、そして教職員一同が、この地、王禅寺に集まり、お花見を楽しめる場があるのは、本当に良いものだ改めて実感した。実は本花見会は原子力友の会オリジナルの企画ではない。元々は当研究所にて長きに渡って教育、研究並びに管理を35年間勤めてこられた堀内則量先生（東京都市大学名誉教授）の研究室（原子炉計測制御工学研究室）が始めたのがきっかけである。研究室内では先輩、後輩、代々が「4月の第1週目の土曜日に花見会」ということだけを伝え、事前連絡がなくとも毎年度、研究室を卒業した本人の他、本人自らの家族を連れ、在學生と教職員を交え、お花見を楽しんだとのこと。原子力友の会では、このような歴史ある花見会を受け継ぎ、これからも継続していきたいと思っております。それでは皆様、来年の「4月の第1週目の土曜日（\*仮設定）」にお会いしましょう。



2024年度 王禅寺での春のイベント

## ■さきがけ

会長 依田 未紗稀（2017 自然科学）

さきがけでは、委員会方式を活用した体制のもと、日々の連絡や定期的なオンライン会議を通じて円滑な情報共有を図り、さらに協力し合うことで組織力の強化に努めています。なお、2024年の事業については、以下の通りです。

- ① 2023年度さきがけ賞授与（5名）
- ② フレッシュアップキャンプTA費用支援
- ③ 2024年さきがけ総会開催
- ④ 会報「さきがけ」特別号発行
- ⑤ 学生との交流会
- ⑥ 第三回ホームカミングデー開催

さきがけ賞受賞者は、朝倉あとりさん、伊澤颯翔さん、金子優人さん、河田優奈さん、遊佐史大さんです。

学生との交流会では、2024年より再出発した自然科学科学生会の運営状況を共有し、今後の問題解決を検討しました。

また、同年11月にホームカミングデーを開催し、学生・卒業生・教員延べ46名の参加がございました。自然科学科准教授の田中健太郎先生、西村太樹先生のご講演のほか、卒業生1名の講演、在學生1名の発表を行いました。その後、ラウンジオークにて懇親会を実施し、在學生・卒業生・教員の交流と親睦を深めることができました。

さきがけでは、新規スタッフの募集をしておりますので、ご協力をいただける方は、[tcu.ns.sakigake@gmail.com](mailto:tcu.ns.sakigake@gmail.com)までご連絡をお願いします。



## ■楷の木会（横浜キャンパス同窓会）

清田 華代（2005 環境情報）

2024年9月15日（日）横浜祭初日 Homecoming Day 2024- 第18回同窓生の集いを実施しました。多くの同窓生や関係者、在學生の方々にお集まりいただき、過去最高の参加者となりました！

第1部「横浜キャンパストークライブ"YC talks"」では、3名の卒業生に講演いただき、岩松さん（08年度環境修了/宿谷研）は9年間を横浜キャンパスで過ごし、研究者として活躍されていること、青地さん（04年度環境卒/小堀研）は大手企業を経てIT業界未経験の社員を積極採用するベンチャー企業の立ち上げをされたこと、藤井さん（06年度環境修了/宿谷研）は学生時代に恩師からの言葉や当時に培われた論理的思考を活用して現在のコンサル業として活躍されていること、本当に様々な背景の卒業生のリアルトークにとっても刺激を受けました。

大谷紀子先生の特別講義『わくわく！』から始まったアナロジー研究の中では自動作曲でコーヒー抽出用の曲を作曲するなど研究の楽しさが伝わる『わくわく！』が詰まった楽しい特別講義でした。第2部の懇親会も盛況で同窓生や学校との繋がりを思い出せる貴重な機会になりました。



左から：大谷紀子教授、岩松さん、青地さん、藤井さん

## RINGプロジェクト

加藤 広樹（2013 自然科学）

RINGプロジェクトは2013年以降に東京都市大学を卒業した方々や在學生にとって、より参加しやすく、より馴染みを持つ校友会となるように事業の計画・運営を行っております。2023年に大変ご好評をいただいたシャインマスカット狩りバスツアーを2024年10月にも開催し、定員44名のところ90名の方々からご応募をいただきました。抽選にて2013年から2024年に卒業された方々、学部学生、お子様連れの卒業生を含め総勢45名にご参加していただき、長瀬の農園にて、甘くて美味しいフルーツの王様、シャインマスカットを食べながら学科や卒業年・学年を超えて絆を深めることができました。



そのほか2024年は、①サバイバルゲーム（東京都稲城市、1月）、②スキースノーボードツアー（志賀高原、2月）、③ボードゲームバー（校友会館、5月）、④ボウリング大会（ラウンドワン高津店、7月）、⑤クリスマス・ボードゲームパーティ（校友会館、12月）を開催し、延べ160名の方々に参加していただくことができました。引き続き、RINGプロジェクトでは若い方々や学生を対象としたイベントを企画・運営をして参りますので、お気軽にご参加ください。またRINGプロジェクトのメンバー募集も行っております。校友会事務局までお問い合わせください。



## キャンパス通信

— 絆でつながる卒業生と大学 —

昨年まで、大学から卒業生向けの広報誌としてお届けしていた「東京都市大学」が、今号からこちらのコーナーに引っ越しました。これからも引き続き、大学からの最新情報を卒業生の皆様にお届けし、双方の絆を深めながら、未来へのつながりを築いてまいります。

### 2026年4月、横浜キャンパスに新棟を建設 — 2024年11月に起工式を挙行

2026年4月、本学の横浜キャンパスに新棟「東京都市大学横浜キャンパス7号館（仮称）」（以下、「7号館」）を建設します。東京都市大学グループは現在、グループ各校が将来にわたって魅力的な学校であり続けるための「長期事業計画（2017年度～2030年度）」を推進中ですが、この「7号館」建設も同計画の一環として実施します。

2023年4月にデザイン・データ科学部を開設した横浜キャンパスには、同学部から接続する大学院として、2025年9月に情報データ科学研究科（情報データ科学専攻 博士前期課程・博士後期課程）を開設します。鉄骨造4階建て、延床面積5,276.44㎡の「7号館」は、学部・大学院の開設に伴う学生数の増加にも対応しながら、「経年優化」「環境への配慮」をはじめとする5つのコンセプトを掲げ、プロジェク

トワークが実施可能な教室や各種イベント等に利用可能な大空間スペースを設けることで、学生のより良い学びの環境を整えます。

2024年11月8日（金）には、同キャンパスでの起工式を挙行了しました。当日の神事には、渡邊 功 理事長、野城智也 学長をはじめとする大学関係者と設計、施工者ら45名が列席し、工事の無事と安全を祈願しました。なお、工期は2026年3月中旬まで、使用開始は2026年4月1日からを予定しています。

本学は、2022年に世田谷キャンパス「7号館」、2023年に同「10号館」を建設し、2025年4月に渋谷区五島育英会ビルに「TCU Shibuya PXU（東京都市大学 渋谷パクス）」を開設するなど、計画的に教育研究環境の整備を推進しています。さらに横浜キャンパスの「7号館」を加え、学生・教職員の学びの環境づくりにいっそう貢献していきます。



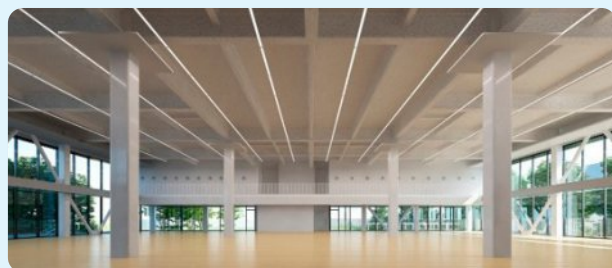
7号館の外観イメージ

#### 横浜キャンパス新棟「7号館」5つのコンセプト

- 経年優化** …… 将来のスマートキャンパスを見据えた「スマートビル」「建物OS」への取組、シームレス連携
- 環境への配慮** …… エコキャンパスの進化、ZEB化（ZEB Ready以上）、カーボンニュートラルへの貢献
- オープンな学習環境の実現** …… フレキシブルなレイアウト（GM室のオープン化）
- 配慮と調和の建物配置** …… 既存建物との一体感（渡り廊下設置等）
- 将来対応（キャンパスリニューアル）** 1階スペースを多目的化



3階内観イメージ



1階内観イメージ



2026年度の完成図（鳥瞰パース）（予定）



起工式の様子



## 東京都市大学大学院

### 「情報データ科学研究科」の設置届出が受理 — 横浜キャンパスに開設

本学は2025年9月、横浜キャンパスに大学院 情報データ科学研究科 情報データ科学専攻 博士前期課程（20名）・博士後期課程（5名）を開設します（文部科学省が、2024年11月20日付で設置届出を受理）。同研究科では、現代の複雑化する社会課題や国際競争の激化に対応するための情報技術、データ科学に関する確かな専門力と独創力を涵養し、課題を発見し設定する力を培うとともに、多角的視点で社会に役立つ「もの」と「こと」をグローバルに企画できるデザイン力と倫理観を身に付けた未来を切り拓く高度情報専門人材の養成を目指します。文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」の支援を受ける同研究科では、

卓越した実務家教員の活用と、キャンパス間をシームレスにつなぐ教育研究設備基盤の機能拡充を図ることが計画され、高度専門職業人の養成とともに、研究者養成の役割も果たしていきます。



「情報データ科学研究科」が設置される横浜キャンパス

### 子育て支援センター「ぴっぴ20周年を祝う会」を実施

子育て支援センター「ぴっぴ」は2004年6月、東横学園女子短期大学に開設した日本初の大学設立の常設子育て支援センターです（2022年6月から東京都市大学世田谷キャンパスに移転）。2024年9月11日（水）、世田谷キャンパスで実施した「ぴっぴの開設20周年を祝う会」には、携わってきた教職員や保育士ら約50名が参加し、施設の見学会、情報交換会、功労者による座談会、懇親会などを行って、世代を超えて親交を深めました。



「ぴっぴ」見学会の様子

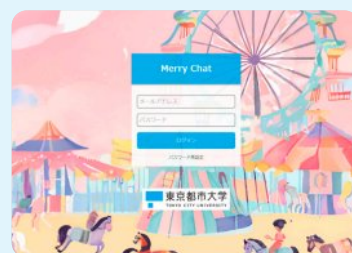
### 大学院 環境情報学研究科に東京都市大学・エディスコワン大学 国際連携環境融合科学専攻 博士前期課程を開設

2024年4月に開設した本専攻は、国際連携教育課程制度に基づき、日本と海外の連携する大学間で開設された単一の共同の教育プログラムを学生が修了した際に、当該連携する複数の大学が共同で連名して単一の学位を授与するものです。東京都市大学オーストラリアプログラム（TAP）の派遣先でもある豪州エディスコワン大学と連携し、カーボンニュートラル社会の実現に向け、アジア大洋州でリーダーシップを発揮できる人材養成を目指します。



### 東京都市大学が生成AIを利用した オリジナル英会話学習システム「Merry Chat」を開発

本学はアーガイル株式会社（東京都新宿区）とともに、生成AI（ChatGPT- 4o）を搭載した英会話学習システム「Merry Chat」を開発し、2024年9月から1年生の必修英語クラスの授業を中心に運用を開始しました。「Merry Chat」は、英会話レベルを3段階から選ぶことができ、会話のテーマや状況、使いたい語彙や文法等も自由に設定して、好きなタイミングで英語を話すことができるなど、さまざまな機能を搭載しています。



Merry Chat ログイン画面

# TCU Shibuya PXU 2025年4月、渋谷に 新たな拠点が誕生!

2025年4月、五島育英会ビル（東京都渋谷区）8階に、新たな拠点「TCU Shibuya PXU（東京都市大学 渋谷パクス）」（以下：PXU）を開設します。課題もニーズも多様化・複雑化する現代社会において、単独あるいは少数の専門分野の知識による課題解決は、いっそう困難なものとなっています。様々な課題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、社会と大学を結びつけ、専門性、主体性を備えた個人がネットワークを形成し、多様な「知」が集うことによって生まれるイノベーションが必要不可欠です。と同時に、イノベーション人材の育成が強く求められています。

渋谷は現在、多数の大手IT企業が拠点を置き、「100年に一度」と言われる大規模再開発が進む極めて魅力的な舞台です。そこで本学は、「渋谷から持続可能な社会を実現するイノベーション人材を輩出する」ことを目指す人材育成の場所としてPXUを構想し、開設へ至りました。PXUは、「イノベーション・ディストリクト<sup>※</sup>構築」をビジョンに掲げ、社会連携の場とプログラムの提供を目指しています。

この施設は、JR・東急・東京メトロ「渋谷駅」より徒歩5分、京王井の頭線「渋谷駅」より徒歩2分という恵まれたロケーションにあります。L字型のワンフロアに展開する施設内部は、2か所のレクチャールーム（Room A、B）、PXUホール、ビッグオークの4エリアおよび個人用ワークボックスで構成され、リカレントの場、交流の場、ネットワーク構築の場にふさわしい環境を整えています。「東京都市大学リカレントプログラム」も開講されるPXUの展開と、大きく広がる可能性に、各方面から期待が寄せられています。 ※企業・行政・大学・地域住民などが連携してイノベーションを生み出す地域

## PXUロゴマークに 込めた想い

社会と大学の交流の場（クロッシング・ポイント）であるPXUは、「P：社会（Public, People）」「X：クロッシング（crossing=Xing）」「U：大学、私たち（University, Us）」の頭文字から成っています。なお、Xには“something between public and us”という意味も含まれており、ロゴマークのXは渋谷での社会と大学の「人」の交流をイメージしています。PXUは場所の名称でありプログラムの総称でもあります。

**FLOOR MAP**

面積（専用部） 706.95㎡

設計監理 建築都市デザイン学部 建築学科 堀場 弘 教授

PXUについて、野城学長、坂井副学長のビデオメッセージをご覧ください

二次元コードから、PXU開設にあたり公開された野城智也 学長、坂井 文 副学長（国際・渋谷キャンパス担当）の動画がご覧いただけます。

# ビジョン イノベーション・ディストリクト構築

## イノベーション人材の育成

主に社会人を対象とした教育プログラムの実施

+

## PXUによって繋がる 様々なステークホルダー\*を 基盤としたネットワークの構築

\*ビジネスパーソン、スタートアップ、  
投資家、政策担当者、研究者等

+

## 持続可能な社会発展に 資する大学と社会との交流

上記、3つの取り組みを柱に活動を展開



最大で100名を収容できるPXUのメインホールは、フレキシブルな活用が可能です。



壁面を含めて最大2面に投影できるレクチャールームを備えています。



交流の場になる半円形カウンターなど、リラックスできる環境も用意しています。

昼光色

電球色



長テーブルを配置したビッグオークをはじめ、施設内の各エリアの照明は時間に応じて自動調整され、創造的な空間を演出しています。

リカレントプログラムの詳しい内容は次のページへ

## ご支援のお願い

学校法人五島育英会（東京都市大学グループ）では、豊かな人間性、国際化社会に適應できる人材の育成を目指し、特色ある私学の創造に努めてまいりました。また積極的な施設設備の拡充により教育環境を整え、教育内容を充実し、教育の成果はもとより進学・就職においても着実な成果を上げてまいりました。これらの様々な取り組みに皆様からのご芳志が有効に活用されております。当法人の取り組みをご理解いただき、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄付の種類、お申込み、税制上の優遇措置などのお問い合わせにつきましては、右記の五島育英会ホームページ「ご寄付のお願い」をご覧くださいたくお願い申し上げます。

● ご寄付に関するお問い合わせ先 東京都市大学グループ 事務局 財務部財務課 TEL.03-6809-7634

五島育英会ホームページ

<https://goto-ikuei.ac.jp/10hojin/30support/>



## 入試情報 学校推薦型選抜（公募制）レラティブ型について

本学は、多様な学生を受け入れるために「学校推薦型選抜（公募制）レラティブ型」を導入しています。この入試制度は、「二親等以内の親族（父母・祖父母・兄弟姉妹）が東京都市大学（武蔵工業大学、東横学園女子短期大学を含む）を卒業または修了した者」であることが出願要件の一つになっています。卒業1年以内および卒業見込みの東京都市大学を第一志望とする受験生で、各学科が定める条件を満たす者がエントリー可能です。学校推薦型選抜（公募制）レラティブ型を含めた入試情報の詳細は、右記の二次元コードからご覧いただけます。



## 東京都市大学リカレントプログラム

2024年1月から開講している社会人を対象とした東京都市大学リカレントプログラムは、2024年11月に「DX人材育成コース」を新たに開講いたしました。社会人であればどなたでも受講可能ですが、既に多くの卒業生にもご受講いただいております。複数回ご受講いただいている方もいらっしゃいます。

「DX人材育成コース」は経済産業省のデジタルスキル標準をベースにしたカリキュラムにより、誰でも学ぶべきDXリテラシーからリーダーに求められる推進スキルの基礎までを網羅的に学習。理論と実践のバランスが取れた内容で、確実なスキルアップの実現を目指すコースです。産学連携により必須授業でビジネス変革を推進できる人材育成を目的とした内容と、選択授業にて求められる基礎的な共通スキルも学べる構成となっています。また、必須授業を担当する5名の講師は全員本学卒業生で、企業の経営者として社会の第一線で活躍している方々が担当しております。

「DX人材育成コース」の概要は下記になります。

## 新たな「教養」を実装する。

2023、2024年度は受講を修了した卒業生の方には校友会から2万円の補助をいただきましたが、2025年度も2万円の補助を実施する場合は都市大校友会オンラインからメールにてご案内をさせていただきます。卒業後も大学で学ぶことができる貴重な機会になりますので卒業生の皆様のご受講をお待ちしております。



### お問い合わせ先

東京都市大学キャリア支援課  
(リカレントプログラム担当)  
mail: recurrent@tcu.ac.jp

東京都市大学リカレントプログラム  
<https://tcu-recurrent.netlearning.co.jp/>

### DX人材育成コース概要

- <定員> 100名
- <受講料> 7万円(税抜)
- <受講時間> 90分授業 × 14コマ
- <受講方法> 対面授業 ※ ライブ配信も実施
- <受講期間> 2024年11月～2025年2月
- <受講場所> 東京都渋谷区道玄坂1丁目10-7  
五島育英会ビル8階  
「TCU Shibuya PXU」



## 2024年度就職動向と支援

学生支援部部长 住田 暁弘

## 就職環境

## ■ 2024年3月卒業・修了生の状況：

新型コロナの影響も落ち着き、各産業の採用意欲も高まり、大卒求人倍率も前年度の1.58倍から1.71倍とさらに改善する環境下で就職活動を過ごした、24年3月卒の学生の就職状況は、就職（内定）率が全国平均98.1%（文部科学省：前年比0.8pt増）と昨年よりも高い数値となりました。本学においても堅調な実績を残すことができています。特徴として採用選考では多くの企業がZoomなどのオンラインツールを活用し企業説明会や面接を実施するようになりました。ただオンラインを併用しながらも最終面接については対面で実施する企業が大半で、オンラインの情報だけでは得られない対面の重要性も改めて見直されたように見受けられます。求人倍率や採用意欲などの面からはコロナの影響からほぼ脱した年であったと言えます。

## ■ 2025年3月卒業・修了生の状況：

2025年3月卒（現4年・M2）の就職活動では、3年生・M1生の夏や秋・冬に実施されたインターンシップ等に参加した学生に対して、早期の選考につなげる動きが加速し、「就職採用の早期化」が一層問題視されるようになりました。一部の学生にとって早期から就職活動を開始しても、なかなか内々定が得られず、長期間にわたって就職活動を継続しなければならないという問題もありますし、内々定を得たとしても多くの企業は採用を継続していますので、もっと自分に合う企業があるのではと考え、多くの学生が就職活動を続けてしまう問題もあります。就職活動自体には、大学での授業や研究、課外活動などと比べて学生を成長させる効果は高くなく、そこに時間を費やすことは社会に出てから必要となる能力を開発する機会が減ってしまうという、学生にとって良くない影響があるとも考えられます。一方、企業側からの視点で見ると、内々定を出しても辞退する学生が多数存在し、企業として計画する採用数に到達するためには、辞退率を予測しながら、長い期間採用活動を継続することが必要となったり、内々定者のフォローに大きなエネルギーを費やさなければならない状況になっています。あわせて企業が辞退する学生を減らすことを意図して「オワハラ（就職活動終われハラスメント）」と言われる事象がおこっていることも大きな問題になっていて、政府からも注意喚起がなされています。これは企業が学生に対して早い時期に内々定を出した後、学生が就職活動を継続しないようにするために企業が行なうハラスメントです。正式な内定は卒業を控えたおよそ半年前の10月1日ですので、政府からは少なくとも正式な内定までは、学生が自由に就職活動を継続することを妨げてはならないと企業に対して要請しています。オワハラの例としては、内々定を出すこと条件として、就職活動をしている他の企業に断りを入れさせる、とか親や担当教員などの署名を入れた誓約書を提出させる等があります。他に起こっている問題として、一部報道もされていましてのでご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが「新卒紹介採用」というエージェントが職業紹介することによる就職活動も指摘されています。これは、今まで「経験者採用（中途採用）」が中心であった、人材紹介、エージェントを使った就職活動を新卒の学生達に適用するものです。他の特徴では、海外や経験職採用の求人では馴染みもある、専門職を採用する「ジョブ型採用」を採り入れる企業も徐々に増えつつあり、採用の多

様化も進む傾向にあります。ただ、日本の新卒採用では、「日本型ジョブ型採用」と言われ、初任配属のみを約束した総合職としての採用形態をとる企業が多いことも指摘されています。また、売り手市場を反映して、大手企業を中心に初任給を引き上げる企業が多くみられるようになっていています。本学ではキャリアガイダンスや校友会が主催する進路相談会、また企業説明会、また個別相談の機会などを通じて、就職・採用の最新の情報を学生に伝えて支援を行っています。現在でも一部活動を継続している学生もいますので、この学生達への支援を最優先としつつ、低学年の学生に対してもキャリア教育などの機会を通じて、授業・研究・課外活動などの重要性を伝え、将来、社会で活躍できる人材に成長する意欲を高められるように支援を継続してまいります。引き続きまして、卒業生の皆様のご協力をいただけますと幸いです。

## 近年の主な就職先

最近3か年の主な就職先を以下に示しました。より詳細な資料は大学ホームページ（HOME >就職・キャリア>就職実績>年度別主要就職先一覧）をご覧ください。

民間企業	3カ年合計	2024年 3月卒	2023年 3月卒	2022年 3月卒
TOPPAN ホールディングス	36	12	11	13
大成建設	34	12	8	14
東京電力ホールディングス	34	7	13	14
日本電気（NEC）	31	9	11	11
三菱電機	30	14	10	6
富士電機	29	12	10	7
SUBARU	25	8	10	7
清水建設	24	9	8	7
いすゞ自動車	24	8	8	8
本田技研工業（Honda）	20	10	2	8
スズキ	19	6	8	5
富士通	18	7	6	5
富士ソフト	17	6	6	5
東急建設	17	5	7	5
ソリューションイノベータ	17	4	4	9
エヌ・ティ・ティ・データ	15	7	4	4
世紀東急工業	15	6	4	5
京セラ	14	6	5	3
鹿島建設	14	4	6	4
日立製作所	14	3	6	5
日産オートモーティブテクノロジー	13	4	2	7
日野自動車	13	3	2	8
前田建設工業	12	5	3	4
キャノン	12	4	6	2
五洋建設	12	3	4	5
日立社会情報サービス	12	2	3	7
ミネベアミツミ	11	2	6	3
アルファシステムズ	10	4	2	4
東日本旅客鉄道（JR 東日本）	10	3	1	6
東海旅客鉄道（JR 東海）	10	3	2	5
セイコーエプソン	10	3	3	4
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	10	3	2	5

公務員	3カ年合計	2024年 3月卒	2023年 3月卒	2022年 3月卒
横浜市役所	26	7	11	8
東京都町	13	4	6	3
神奈川県庁	13	3	6	4
世田谷区役所	10	3	4	3

## 「2024年度定期総会」を開催



2024年度の定期総会は、ハイブリッド方式（対面及びリモート ZOOM）にて5月18日（土）13時より世田谷キャンパス71A教室で開催致しました。

2023年度事業報告、2023年度収支決算、2024年事業計画、2024年度収支予算等は、校友会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

総会後に講演会として、2024年1月1日より、学長に就任された野城智也先生に「大学輝くために考えていること」と題して、今後大学をどう導びていかれるかについてお話をお伺いしました。

また、講演会後には、懇親会を行い旧交を温めました。



野城智也学長



## 校友会活動充実のための維持会費納入のお願い

校友会では、今後の活動を維持し、更に充実したものとしていくため、維持会費の納入をお願い致します。なお、2024年2月1日～2024年12月31日までに維持会費を納入いただきました方のご芳名一覧を校友会報「都市」本号（第12号 2025年3月発行）の発送時に同封しております。

＜維持会費金額＞ 1口2,000円（1口以上何口でも結構です。） ※税制上の控除はございません。

＜納入期間＞ いつでも受け付けます。

＜納入方法＞ ①ゆうちょ銀行窓口・同銀行内ATMにて通帳・カードで振込……振込手数料は、無料です。

なお、現金での払込取扱票による振込みの場合、振込み手数料はご負担ください。

②各銀行窓口・ATM・ネットバンキングより以下の口座に振込……振込手数料は、ご負担ください。

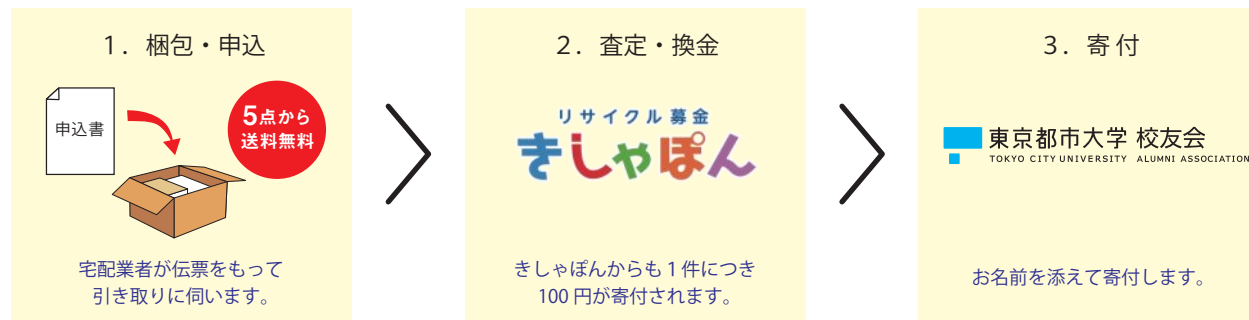
【振込み先】ゆうちょ銀行 店名：〇一九（ゼロイチキユウ）

預金種目：当座 口座番号：0451231 口座名称：東京都市大学校友会

【お問い合わせ先】 東京都市大学 校友会 事務局 TEL：03-3703-3862 mail：koyukai-jimu@tcu.ac.jp

## 東京都市大学校友会リサイクル募金のお願い

皆様から読み終えた本、DVD等をご提供いただき、その査定金額が東京都市大学校友会に寄付される取り込みです。寄付金は、在学生支援事業に役立てられます。ご協力よろしくお願い致します。梱包前にできるものとできないものをご確認下さい。



■ WEBでのお申し込み（24時間） 東京都市大学校友会リサイクル募金 kishapon.com/tcu-alumni/

■ 電話でのお申し込み（9:00～18:00） ☎0120-29-7000 オペレーターに **208** とお伝えください。

（運営協賛）リサイクル募金きしゃぽん／嵯峨野株式会社

## 表紙解説

勝又 英明 (1980建築)

今回の表紙写真は2024年9月15、16日に開催された横浜祭のゲート付近です。横浜キャンパスの正門に横浜祭のゲートが設けられ、その内側に7色の横浜祭 WELCOME サインが設けられていました。9月15日15時頃撮影しました。

横浜祭は昨年2023年から新型コロナウイルスの制限を緩和し、今年も対面での開催となりました。会場には本学関係者や近隣の方など多くの皆さんでにぎわっていました。撮影をした9月15日には横浜キャンパス「ホームカミングデー」懇親会も開催され、多くの卒業生の皆様も来場されていました。

世田谷キャンパスでは、敷地面積の1/3をリニューアルする「東京都市大学キャンパス再整備事業」が2024年8月に新10号館が竣工したことにより、完了しました。今度は横浜キャンパスで2026年4月の供用開始を目指して7号館（仮称）の建設が始まりました。新棟はデザイン・データ科学部、大学院情報データ科学研究科開設に伴うもので、横浜キャンパスとしては久しぶりの新棟建設です。横浜キャンパスの風景もこの数年で変わっていくかもしれません。

皆様方には2025年度の横浜祭、ホームカミングデーには是非お越しください。建設中の新棟も見ることができるともかもしれません。お待ちしております。

vol.12

## 編集後記

三川 健太 (2005 環境情報)

校友会会報「都市」第12号をご覧ください、誠にありがとうございます。本号では、皆川会長による巻頭言や、野城学長からのご挨拶を掲載いたしました。また、各キャンパスで実施されたホームカミングデーや支部総会の様子、さらにアイスホッケー部の活動紹介を写真とともにお届けしております。今回より、新聞会に所属する現役学生の皆さまにご協力いただき、ホームカミングデーおよび一部の支部総会の参加報告をご寄稿いただきました。現役学生の活動を卒業生の皆さまにお伝えできればと思います。

また、米国で長年ご活躍されている卒業生の貴重なご寄稿や、各学科・学科同窓会の近況報告も掲載させていただきました。これらを通じて、大学や同窓生の皆さまの最新情報をお届けできれば幸いです。

裏表紙にも記載しておりますが、郵送費用の高騰などを理由に、本号をもちまして校友会会報の紙媒体での発行は終了となります。この決定にあたり、多くのご意見があることは承知しておりますが、他のプラットフォームを活用することで、より柔軟かつ鮮度の高い情報を会員の皆さまにお届けできると考えております。今後は、校友会のウェブサイトおよびメディアプラットフォーム「note」をぜひご利用くださいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本号の執筆にご協力いただきました皆さま、編集に多大なご尽力をいただきました皆さま、東京都市大学新聞会の皆さま、そして事務局の皆さまに心より感謝申し上げます。

### 会報編集部

部会長：羽倉 尚人 (2005エネルギー基礎)

編集長：三川 健太 (2005環境情報)

委員：勝又 英明 (1980建築)

委員：和多田雅哉 (1984電気)

委員：菊地 辰矢 (2005機械)

委員：及川 昌訓 (2007環境エネルギー)

2025年3月19日発行

東京都市大学 校友会 都市 vol.12

発行人 皆川 勝

発行所 東京都市大学 校友会

〒158-8557

東京都世田谷区 玉堤1-28-1

東京都市大学1号館4階

Tel.03-3703-3862

Fax.03-3703-4595

E-mail koyukai@tcu.ac.jp

URL <http://www.tcu-alumni.jp>

制作 富士印刷株式会社

印刷 有限会社 ライト社

## CONTENTS

2025 March Toshi vol.12

- 1-2 巻頭言
  - 1 東京都市大学 校友会 会長 皆川 勝
  - 2 東京都市大学 学長 野城 智也  
東京都市大学 校友会 顧問
- 3 ホームカミングデー
- 4 活躍する卒業生
- 5-6 学生による支部総会の取材
- 7 キャリアサポート
- 8 都市大校友オンライン
- 9-12 支部だより
- 13 サークル(アイスホッケー)活動紹介
- 14-19 学科だより
- 20-22 学科同窓会だより
- 23-26 キャンパス通信
- 27 リカレントプログラム
- 28 2024年度就職動向と支援
- 29 校友会からのご報告並びにお願い
- 30 表紙解説・編集後記

## 2025年度 校友会定期総会〈ハイブリッド〉 開催について

開催日：2025年5月17日(土)

会 場：世田谷キャンパス

スケジュール：13:00～14:30 総会  
14:45～15:45 講演会  
16:00～18:30 懇親会

〈講演会講師〉映画監督 本木 克英氏

主な作品：「釣りバカ日誌 11～13」、「超高速！参勤交代」、「超高速！参勤交代リターンズ」、「空飛ぶタイヤ」、「カーリングの神様」その他多数

※開催の詳細は、校友会ホームページ、都市大校友オンラインメールにてお知らせいたします。

## 2025年度ホームカミングデーの日程について

横浜キャンパス……2025年9月14日(日) 予定

世田谷キャンパス…2025年11月1日(土) 予定

※開催の詳細は、校友会ホームページ、都市大校友オンラインメールにてお知らせいたします。

## 校友会館自由が丘クラブ

コロナで中断していた飲食の提供を再開しました



お弁当、ケータリングはお問い合わせください

対面+Zoomの会議、Wi-Fiが使用できます



ハイブリッド方式オンライン会議



光通信回線で高速で安定した通信環境です

東京都市大学校友会会員の憩いの空間！！

会議室「柏」、「桐」と「サロン」は東京都市大学校友会会員  
(卒業生、在校生、教職員)は**室料無料**でご利用いただけます。

↓会館 facebook



↓会館 HomePage



↓ご利用予約



## 冊子の発行は今回で最後になります

2014年に創刊した校友会会報誌「都市」は、毎年3月の学位授与式に合わせて冊子体を発行し、会員の皆様に発送してきましたが、近年の輸送コストの高騰などを受け電子媒体での発行に移行します。

校友会のホームページやメディアプラットフォーム note からの配信をぜひご覧ください。



校友会ホームページ

<https://tcu-alumni.jp/new/>



都市大校友会 note

[https://note.com/tcu\\_alumni](https://note.com/tcu_alumni)